

目次

- 1…就任の挨拶 長野蘭蔵
- 2…老兵は死なず 鎌田修一
大阪白水会決算報告
- 3…誠実・創意 藤倉文夫
- 4…母校便り
- 5…各科便り
- 7…55年度卒業生の進路
- 10…訃報
- 12…会だより
- 14…応援歌 京よ 吾が母校
- 18…会員だより
- 22…54年度会費納入者一覧

白水会報

発行所
 大阪市立泉尾工業高等学校内
 大阪白水会
 〒551
 大阪市大正区泉尾5-16-7
 TEL 大阪 552-2221代
 振替 大阪 82966
 発行人 長野蘭蔵
 編集責任者 北川恒夫

就任のあいさつ

新会長 長野蘭蔵(C4)



昇中御見舞申上げます。
 この度、会長の重責をになうことになりましたが、母校六〇周年記念事業も計画されようとしているときその責任の重さを痛感する次第です。次期会長は、業科が願番であるとのことでしたが、色々の事情で、昨年は見送りとなりました。私も、母校五〇周年記念達成時に当時の飯田会長と今後は若い人にゆづらうと話し合い、有能な西井・鎌田前会長の出馬により会は益々発展していることを喜んでいました。この度も、是非若い活力のある人の出馬を念願しましたが、思うようにはいかず、さりとて誰かが果さねばならぬ願番であり、泉会会の推薦もあり、会長就任を決定した次第です。この為、残念ながら昭

和②けたより①けたにもどる結果になりましたが、これを機会に昭和①けたの古い卒業生は同輩の出馬に同情協力し、②けたの卒業生は溢れる活力で、更に強力に支援され、今後の白水会の活動(特に六〇周年記念事業等)に対してお援助、ご教示をお願いする次第です。
 私は、財、体力もありませんが「母校白水会」を思う情熱は人後に劣らぬつもりです。それで皆々様全員のご協力によりなんとか責任を果し度く思っていますので、何卒よろしくお願ひ申上げます。
 白水という字は、泉からきていると考えますが、この字を私は好きで、これと永久につきない流れとして、白水会の先輩、後輩、諸君の血の中に常に流れ、業界、学会その他に、いづれ劣らぬ後秀を送り、伝統ある学校として知名度を高めてきたのですが、真面目な技術者として、「技術報

国」に今後徹すべきだと思います。特に必要なことと、思いますので、今後の生き方に奮起されん事を祈ります。

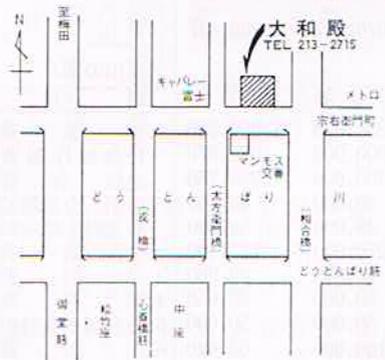
熱烈歓迎新入会員 総会のご案内

日時 7月19日(土) 18時
 会場 大和殿 TEL213-2715

一夕を同窓がつどい旧交を温めよう。
 多数ご出席をお待ちしております。

会費 三、五〇〇円、
 但し54年、55年卒業生は、一、五〇〇円

◎議事の時間を短縮しますので会報の決算書等をお目通し願います。
 クラス会、クラブOB会などの集いにもご利用下さい。



(写真は昨年の総会場の光景)

老兵は死なす

前会長 鎌 田 修 一 (D13)



政治の大変動は、戦争キライ国、日本へにわかに自主防衛への対応を迫り、共同安部の戦略へ、防衛力の「増強論」攻勢である。

今年もまた八月十五日がめぐってきて、敗戦の日がさらに一年、歴史の中に沈んでゆく。焦土に呆然と立ち尽くしたあの日から三十五年――戦中・戦後を生きて抜いてきた世代に、その感は無量である。若い空に雲を思い、雲の白さに南への思いを追うとき、南方の暑熱の豪の中で一滴の水も無く散っていった戦友に、痛恨は尽きない。

今年も終戦の日を迎え、戦火に散った人々をしのぶ行事が、全国でとりどりに行われるであろう。「戦争」という有事における政治が冒した大東亜戦争――の功罪は、いまだ「亡羊の嘆」である。戦争は終わったが、世界の歴史家が背負った複雑で巨大な歴史は、永遠に論じ続ける歴史家の問のたにかいである。

「増強論」攻勢である。開戦、最高指揮官陣没、のドラムが示した不測の有事の両院選終わり、夏草の戦場に、明暗はきびしい。各党陣営に去来するものは、奇跡と錯覚と冷峻な現実である。戦塵を払って出てきたつわものたちに、国民はしばしこの国の運命を委ねねばならない。思えば戦後、政治家が国政に尽くした功績はこれを認めるにやぶさかでない。が、「軍部」なきあとの無敵の所業に、傲慢と欺瞞と怠慢、の闊歩した特異性もまた見のがすわけにはいかない。権威をかさに、有るべき「政・軍」関係を研究することなくいちぢきに「一方」を封じてこめてきた独善と虚勢と保身の文民統制、おごりと迎合と軍事目的の政治姿勢が、自衛隊の存立と任務を曖昧にし、士氣と誇りを阻害させ、旧軍と戦争へのイメージをつなぎあわせる、いわれなき

負い目、の立場に孤立させてきたのである。まことに奇怪である。祖国防衛の先頭に挺身する自衛隊を日蔭の存在に放置してきた政府・与党、隊員の心を平気で踏みしめる言動をくり返してきた一部野党のふるまい、は歴史に悔恨の時を迎えるであろう。

政治家たちが、「あつものに懲りて」の警戒心と時代の变化と流れの中で戦争を忌むのあまりとはいえ、防衛問題をタブー視し、防衛を怠り、国防が（国民を守るという）最優先国策であり、安全保障と防衛が国家のもっとも大切な任務であるという基本をなおざりにしてきた責は大きいといわねばならない。

歴史をふり返るとき、あらゆる戦争の記録には、ならぬかの教訓が秘められている。勝者にも敗者にも平等に与えられるはずの戦訓が、いかに活用されるかによって、次代の命運は決まるものだとわらわっている。賭けた「不信任」会戦の「戦いすんで日が暮れて」の政党にも、通ずるものがある。

政治は平時における戦略、という。各党防衛問題にも、いまこそ眼を内外に

向け、「百年兵を養い、一日の用に供せず」にすむ政治へ、文民統制の英知を傾けてもらいたいと思うものである。

国際政治情勢混迷の今、「平和を望むなら、戦争を理解せよ」と言った(英)史家リデル・ハートの言葉は鮮烈である。

さて、ふり返れば「征戦三年人馬老ゆ」の小生、首言と無策の歳月、顧みて内

心忸怩(じくじ)たり。折に触れ賜わりし叱咤激励の壮語、万謝。時にせし逸脱の白水会、既に戦争を知らざる世代が主力の今、世代交替は時の流れ。挙げてOB渴望の声。

皮袋に盛られねばならず」とか。昭和ニケタ代諸兄の参画、期して待つ所以。新しい祝野、新しい感

賞、新しい白水会の運営

へ、来たれよかし、先陣の烈丈夫。吾(われ)辞さば、傾盃、時に知床旅情の空愁に酔い、史書を枕は「麦と兵隊」の進軍賦にわが青春のときを思いつ。

去るにあたり、受けしご教導、ご温情を重ねて謝し、米(ウエストポイント)陸軍士官学校に伝わる軍歌の一節を別辞に、揮筆。「老兵は死なす だが消えゆくのみ」

55年度 大阪白水会予算案

〔一般会計〕	
収入金額	2,158,797
支出金額	2,158,797
差引額	0
(収入の部)	
項 目	予算額
前年度繰越金	418,797
前年会費	830,000
前年会費	700,000
前年会費	10,000
前年会費	200,000
合 計	2,158,797
(支出の部)	
項 目	予算額
1.事業費	1,547,000
1)会報製作費	1,130,000
2)総会費	300,000
3)新入会員歓迎費	80,000
4)退職記念品料	27,000
2.会議費	200,000
3.通信用費	30,000
4.事務費	50,000
5.教育後援会分担金	50,000
6.出張費	100,000
7.積立金	150,000
8.雑費	41,797
合 計	2,158,797

昭和54年度 大阪白水会決算書

〔一般会計〕		
収入総額	2,252,447円	
支出総額	1,833,650円	
差引額	418,797円(次年度へ繰越)	
(収入の部)		
項 目	予算額	決算額
前年度繰越金	430,201	430,201
前年会費	830,000	803,810
前年会費	600,000	765,845
前年会費	10,000	4,351
前年会費	200,000	248,240
合 計	2,070,201	2,252,447
(支出の部)		
項 目	予算額	決算額
1.事業費	1,398,000	1,290,250
1)会報製作費	1,000,000	929,570
2)総会費	300,000	228,280
3)新入会員歓迎費	50,000	80,400
4)退職記念品料	48,000	52,000
2.会議費	270,000	185,400
3.通信用費	20,000	29,960
4.事務費	50,000	36,950
5.教育後援会分担金	50,000	50,000
6.出張費	100,000	62,620
7.積立金	150,000	150,000
8.雑費	32,201	28,470
合 計	2,070,201	1,833,650

誠実・創意

校訓に寄せて

学校長 藤 倉 文 夫



みられます。これは、経済の高度成長、物質文明の発達などに加えて、政・官・財界の汚職・不正が新聞を賑わしていることと無縁ではないと思われま

このような状況の中でこそ、将来の社会をになう青少年に誠実な生活態度を身につけさせることは、学校教育の重点目標の一つであるといえま

つぎに「創意」とは、国語辞典によれば「新たにものを考へ出す心。新しく考へ出した意見や見方」などとなつていま

「創意」は、「まごころがあつてまじめなこと、またそのさま。いつわりなく、まめやかなこと。まこと」などとなつていま

現在の社会では、とかく正直者が馬鹿をみる風潮が

件である深く考えたり、自ら作り出すことが、とくになおざりにされがちな現状の中で、創意や創造性を育てることは、これまた学校教育の重点目標の一つであるといえま

本校の卒業生の中には、さすがに誠実・創意を身をもって体しておられる方が多いと拝察いたします。

昨秋、シカゴ大学アルゴンヌ国立研究所の阿閉正夫博士から泉尾工高長宛に、挨拶状をいただきました。

博士は昭和十七年本校工業化学科を卒業、浜松高工、東京工大を経て阪大理学部特別研究生として在籍中、ミネソタ大学のリブスコム教授（一九七六年ノール化学賞）から招待を受けられました。

職直後で渡米困難な時代でしたが、出身小学校および本校の友人・知人の方々の協力もあって、旅費の調達もでき、二六年渡米、リブスコム博士のもとで研究に専念され、三一年ミネソタ大学で理学博士号を受けられ、アイオワ大学助教授に就任、三五年にアルゴンヌ国立研究所教授に昇進、物理学の阿閉研究室を設立、四四年に最高の教授・執政長の名譽を受けられま

した。リブスコム教授がノーベル賞記念講演で「阿閉博士との共同研究が、受賞対象となった分子構造解明のきっかけになった」と紹介されたほど、その業績は高く評価されています。また、阿閉博士の指導を受けられた世界各国の研究者が学者として多数大成されているやに伺っております。

昨秋お便りいただいたと、白水会報をお送りします。「いづれ母校や皆々様に御礼を申し上げます。泉尾工高出身で小生より遙かに立派に大成・成功されている人々が沢山あることども御同慶の至りです」とご返事をいただきました。博士からのお便りや知人のお話などから、誠実で創意に秀でた努力家でありつつやるべしと拝察されます。

今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

○昭和五十七年には本校の創立六十周年を迎えます。歴史と伝統に輝き、さらに未来に飛躍する泉尾工高にふさわしい記念行事・事業をとお考えしておりますが白水会の皆様にはどうかよろしくご指導ご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

阿閉氏は東大阪市西垣本町出身。楠根尋常小学校卒業後、泉尾工業学校応用化学科へ進学、昭和十七年本校を卒業後、さきに浜松高等工業に進まれた。同校卒業後、工業化学研究室の助手を務められながら大学の検定試験にパス、東京工大に進学、二回生の時に終戦を迎えられ阪大理学部に編入。同大学卒業後も同部の特別研究生として物理

〔積立金会計〕

項目	金額
前年度繰越金	2,123,098
預金利息	69,264
立金	150,000
合計	2,342,362

次年度へ繰越

會計監査報告
昭和54年度大阪白水会會計を監査したところ使途は適正であり會計帳簿、預金通帳の記載は正確であったことを認めます。
會計監査 福原初男 榎平岡利隆

◆54年度 事業報告
常任理事会 (5/10・6/5・9/7)
役員・理事会 (5/18)

東京支部総会 (5/30)
卒業生を囲む会 (6/25)
会報発行 (7/5)
総会 (7/19)

東京支部総会 (6/1)
卒業生を囲む会 (6/6)
会報発行 (7/2)
総会 (7/13)

◎55年度役員
会長 長野蘭蔵氏 (C4)
副会長 布谷伊光氏 (S4)
山下文雄氏 (D16)
黒田 豊氏 (C17)
清水博司氏 (A17)
西井正博氏 (M18)
河端 保氏 (E41)

◆55年度 事業計画
常任理事会 (4/28・6/16・9/8)
役員・理事会 (5/23)

学を勉強された。二十二年米國ミネソタ大学のリブスコム教授の招きで渡米、三十一年理学博士アイオワ大学助教授に任命されました。三十五年シカゴ大学アルゴンヌ国立研究所教授に昇進、中性子解析・物性学の阿閉研究室を設立。現住所
Dr. & Mrs. Masao
Atoji 702 86th Place
Downers Grove, IL
60515 USA
(編集係記)

阿閉氏の略歴
阿閉氏は東大阪市西垣本町出身。楠根尋常小学校卒業後、泉尾工業学校応用化学科へ進学、昭和十七年本校を卒業後、さきに浜松高等工業に進まれた。同校卒業後、工業化学研究室の助手を務められながら大学の検定試験にパス、東京工大に進学、二回生の時に終戦を迎えられ阪大理学部に編入。同大学卒業後も同部の特別研究生として物理

学を勉強された。二十二年米國ミネソタ大学のリブスコム教授の招きで渡米、三十一年理学博士アイオワ大学助教授に任命されました。三十五年シカゴ大学アルゴンヌ国立研究所教授に昇進、中性子解析・物性学の阿閉研究室を設立。現住所
Dr. & Mrs. Masao
Atoji 702 86th Place
Downers Grove, IL
60515 USA
(編集係記)

〈職員移動〉

◇お送りした先生

◎馬越洋一先生
昭和三十八年四月以来、十七年間、数学担当として精力的にご活躍されました。

最近では体をこわされ、暫く休養されることもありましたが、選進生徒の指導の研究に力を注いでおられました。此度、ご自宅に近い

府立東寝屋川高校に転動されました。

◎城浦美代子先生
昭和四十七年四月以来、ユニークな英語の授業をされる先生として有名で、この三ヶ年は、

大阪市教育研究所で一層の研究を重ねておられました。此度、市立扇町商業高校に転任されました。

◎上畑守先生
昭和五十三年より二年間英語を担当されました。のんびりとした坊ちゃんという感じで、生徒から敬愛されておりましたが、今春からは、市立第二工業高校に転じられました。



◎その他

清水久彰先生(体育非常勤講師、一ヶ年)

西野悦子先生(英語非常勤講師、二ヶ年)

下井徳雄さん(庶務課勤務二ヶ年) 第二工業高校事務長として転出

◇お迎えした先生

◎辻 光典先生(数学)

馬越先生の後任として、泉尾第二工業高校からお迎えしました。温厚篤実なベテラン先生。

◎岡田直樹先生(英語)

城浦先生の後任として迎えた。今春卒業されたばかり、バイタリティを誇るピカピカの先生。

◇その他

柳瀬和則先生(数学)

岡田祐子先生(体育、泉工D科OG)

絹川俊幸先生(英語)

山田淳先生(地理)

江見勉先生(電気)

以上の先生は、今年の非常勤講師として、協力いただいております。

◇学校行事から

◇宿泊オリエンテーション
新一年生を対象に、四月十三日から、紀北青年の家で、二泊三日の合宿研修会。本年も無事終了しました。

◇卒業生を囲む会

六月二十五日 例年の通り、就職を控えた三年生のために、各方面で活躍中の会友諸氏の協力で実施。

◇体育祭

十月三十日(木)、校内で実施される予定。平日であります。ご来校の上後輩をばけましてやってください。

◇文化祭

十一月十六日(日)、体育祭と同様、全校参加を目標して実施の予定。

◇スキー研修旅行

三年前から修学旅行に替る行事として定着。従前通り竜王スキー場で、二年生を対象に、二月三日から四泊五日の研修を行う。



六月二十五日 例年の通り、就職を控えた三年生のために、各方面で活躍中の会友諸氏の協力で実施。

最近の生徒の実態
=生活環境とからだ=



感心できない。最近は大単車購入の目的で、夜遅くまでおこない就寝時間が遅くまた短い。このような生活をおくっているため、いつもすっきりしない体調であるということである。

授業中にアゴを突き出し両腕を立てて机にもたれ、朝からアクビばかりしている。無気力で集中力が不足している。

本来、人間の生活のリズムは自然とのかかわりのなかで、日が昇ると同時に活動が始まり日没で休養(睡眠)をとるといふパターンがつくりあげられ、多少の変化を加えながら受け継がれてきた。ところが、照明の発達、便利な生活様式、商業ベースに乗った深夜のテレビ、ラジオ放送、豊富な物質、さらにスーパの深夜営業など生徒達の環境が一変している。一見恵まれたように思えるが、これらのことの重なりが生徒達の夜行性の人間とし、健康でないからだの状態に追い込んでいっている。

「心身ともに健康」人間が生きるための基本でもありいうまでもなく、健康を保持するためには栄養(食事)、休養(睡眠)、運動の三本柱のバランスとその確保が必要である。したが

最近毎日のように「しんどい」「体の調子が悪い」「ねぼうした」と訴え、学校を休んだり、遅刻が多くなったりする。これらの生徒の家庭生活の様子を聴いてみると、なんとなくゴロゴロしながらテレビを見て過ごす、運動らしいことはしていない、深夜ラジオを聴き、朝食ぬきで登校して行く。またアルバイトをしている者も少なくない。学校を終るや一早くアルバイト先へかけ走る、アルバイトの内容や時間、使途は余り

	1 年 生		2 年 生		3 年 生		計		昨年計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
文 化 運 動	22	0	31	7	30	15	83	22	105
	130	16	90	20	54	18	274	54	328
計	168		148		117		357		407
加入率	45.9		45.4		42.9		44.5		44.9
昨年加入率	40.9		51.2		34.2		39.8		53.2
在 籍	310	56	274	52	219	54	803	162	965

昭和55年度 部・同好会加入状況 (5月1日現在)

(生活指導部長 前田昌男)

繊維工業科だより

○卒業生のみなさん、お褒りなく元気に活躍のことと母校から挨拶申しあげます。

繊維工業科に昭和三十九年女子生徒が初めて入学されて以来、女子が次第に優勢となり、男子が卒業しない年もありました。ところがここ一二年の間に変化が現われ、現在三年生の男子は四名ですが二年生では男子十七名、一年生は男子十八名が入学しました。男女比がほぼ半々になってきたわけです。このため女子主導型になっていた就職や進路が近い将来変化してくるようになると思います。

実習内容についても、生徒の変化や志望の多様化などによって変わってきております。例えば製織部門ではカナダやスエーデンから手織機を十一台入れて、一人一人の生徒にそれぞれの作品をつくらせることを主眼として取組みはじめました。

色染工業科だより

○古い実習場で実習をした最後のクラスが、この三

月に卒業していきました。これで、高い天井とわた

た。(増成・米田先生担当)
繊維化学実験の内容は大幅に改められ、全実習の三分の一は染色基礎実習を学ぶことになっていきます。やはりここでも作品をつくることを一つの目標にしています。(川島先生担当) 作品づくりとなれば、どうしてもテキスタイルデザインを加えなければなりません。(市原先生担当) 編組ではよこ編が中心ですが、自信をもって着られる作品がここでもねらいになってきています。(辻村・木原先生担当) 物理試験の三年生は、コンピュータがとりあげられるようになり時代に少しでも遅れないよう学習してゆきたいと考えています。(里崎先生担当)

卒業生のみなさん、在学当時の実習場や学んだ学料内容をなつかしく想い出されることではないでしょうか。

っ広い実習室、菓品の臭いのしみ込んだ実習室、これらの郷愁を共有する世代と、新実習室しか知らない世代との世代とに、色染工業科も分けられそうです。

窯業科だより

○本年の卒業生は33名(うち男3名)でした。くわしい進路状況は別掲の通りですが、色染関係の仕事につき者16名(うち男子3名)、色染関係の事業所の事務につき者4名と、ほぼ半は在学中の勉強に直接ならなかのかわりのある職場に就職しております。

卒業生の皆様には益々お元気で御活躍のことと存じます。

窯業科は旧態通りで変わりありませんが、まず新年度のクラス担任を紹介いたします。

- 一年(正担) 田口、(副担) 石井
- 二年(正担) 前川、(副担) 酒井
- 三年(正担) 榎本、(副担) 山中

田口先生(健康教育課)は久し振りに窯業科の担任をしていただくことになりました。先生には担任で、また体育、保健の授業やサッカー部などでごめられたりした懐かしい思い出の卒業生の方もおられることと存じます。

卒業生の皆さんお元気で活躍のことと思います。今年も六五名の卒業生を送り出しその進路は別掲のとおりです。先輩諸氏のもとに勤務している後輩も多いことかと思っております。

工業化学科だより

一時一クラス十名位いの女子が在籍した事があり、総勢五十余名の一大勢力で、体育祭では彩りを添えてくれていました。それがここ数年漸減の傾向で今年の入学者は六名、二年生三名、三年生三名の女子が在籍しています。これからもこの傾向が続くのではないかと思われます。

工業化学科に女子が入学して来ましたが、昭和四十年からです。この年の入学試験日は、前日夜半から降り出した雪は明け方になっても降り止まず、出勤時刻頃になってやっと小降りになったものの、積雪は記録的なものとなり、各所で送電線の切断、交通機関の運休、主要幹線道路での事故、渋滞等で、各所で大混乱が起きました。特に公立高校の入試日とまていて、受験生は勿論保護者も時刻までに志望校に到着できないものが続出し、教員の一部もこの例に洩れず勤務校到着が遅れました。府、市教委は入試開始時刻を午後からと発表し、異例の入試時刻延期となった年でした。この年に入学した女子生徒が昭和四十三年に六名卒業したのが女子第一期生です。その後

窯業科職員他校への移動はありますが、岩崎先生が生活指導課から戻られ、代って佐藤先生が出勤され生活指導の面でも活躍されています。

次に本年も27名が卒業し先輩諸氏のもとで、お世話になっておられると思いますがどうかよろしく御指導御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

○七月二十九日から大阪を中心として日本工業化学教育研究会全国大会が開催されます。これに関して、数多くの先輩諸氏に御無理をお願ひし、ご協力を戴き、お陰様で、所期の目標を達成することができ、工業化学科の面目を飾すこと

ができました。御協力を戴きました諸先輩と関係企業担当者に紙上をお借りして

厚く御礼を申し上げます。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

化学機械科だより

卒業生の皆さんには、お元気で活躍のことと存じます。

当科では前回の会報でお知らせしました様に、五十四年度入学生より機械科と科名変更をし二年目を迎えました。化学機械科の教育課程で卒業するのは現三年生で最後となります。社会

今後就職困難な状況が続くことと思われず、在校生自身の努力は勿論のことですが先輩諸氏の暖かいご支援ご指導の程お願い致します。

状態や生徒の素質が多様化する現在、機械技術の基本を十分身につく様に指導すると共に五十七年より実施される新しい教育課程に向って充実した教育内容とユニークな特徴をもつ機械科として飛躍し地域社会の要求にも応じられる様にと職員一同研究努力しております。

今年度より科長が大坂先生から大西先生へとバトンタッチされました。前科長大坂先生は三十三年より二十一年間の長きにわたり化学機械科の発展と充実にも多大の功績を残され科の中心的な推進力として尽力されてこられました。今後とも引き継ぎ今迄と変わらず以上に活躍されることと致しやう。

本年三月の卒業生にとつて幾分好転のさざしはみえましたが矢張り不況の続く悪条件のもと先輩各位のご支援ご配慮のお蔭をもちまして全員それぞれ進路を見出し果立つことが出来ましたこと機械科職員一同安堵の胸をなせおろしました。

六月二十五日には恒例の「卒業生を明む会」を開きました。先輩諸氏の出席を得て実社会に出るからの経験談や抱負等有益な話をお聞かせ戴き、在校生が今後の進路を決定するに当り大変参考になる有意義な時間を過ごすことができました。今後共よろしく御指導の程お願い致します。卒業生の皆さんも機会があれば母校を訪れ其後の近況等を聞か

- せて下さい。
- もと機械科に在職された先生方に対する問合せがよくあります。そこでかつてM科に籍を置かれ昭和三十六年以降転退職された先生方の近況(現在の勤務先)住所をまとめましたので御利用下さい。(敬称略)
- 辻野慶治(死亡)
- 本田謙二
- 東成区大今里南六―一二一―一三
- 渡壁藤重(生野工高)
- 豊中市東豊中町六―九一―四二―一〇一
- 柴田 勉(生野工高)
- 生駒市あすか野南一―一―一
- 飯室 強(此花工高)
- 豊中市東豊中町一―一―七

- 根来 宏(佐野工高)
- 貝塚市沢一―一二三
- 多田友和(生野第二工高)
- 奈良県北葛城郡香芝町穴
- 虫ヶケ丘三―三四―一
- 森 毅(浜国レールKK)
- 柏原市平野一―八二―二八
- 谷口仙三郎(生野二工高)
- 城東区諏訪四―一九―九
- 松沢義平(生野二工校長)
- 奈良市朝日町二―二二―五
- 小林東生(大阪市教育委員会)
- 神戸市須磨区高倉台八―一四―一八
- 松本義彦(鶴見商高)
- 京都市左京区岩倉花園町
- 一九二
- 田中誠孝
- 豊中市上野西四―三二―九

電気科だより

卒業生の皆さん、お元気で活躍のことと思えます。電気科職員も今年も移動もなく、全員元気で頑張っております。昨年同様よりお知らせ致しました中島先生の急性肝炎も昨年八月には全快され、二学期からはまた電気科長として元気に勤務されています。

卒業生の皆さん、お元気で活躍のことと思えます。電気科職員も今年も移動もなく、全員元気で頑張っております。昨年同様よりお知らせ致しました中島先生の急性肝炎も昨年八月には全快され、二学期からはまた電気科長として元気に勤務されています。

大平先生が本年から進路

指導課長として、学校全体の進路指導の仕事をしています。大変苦勞な事ですが、頑張っていたのだと思います。

が全面的に最新式のものになり、一段と製図の能率が上がる事になりました。次に、電気工事士試験筆記試験免除の証明書についてお知らせします。今年度の申請は終了(毎年大体五月)でしたが、証明書を学校の事務所へ申し出られる際、必ず「電気工事士試験筆記試験免除の為の証明書」と指定して下さい。大阪府の場合、府の指定用紙を使用することになっていきます。なお、手数料は五十円、切手でも結構です。郵送を希望される場合は切

手をはった封筒も送って下さい。

今年卒業しました十五期生の進路の状況は別掲の通りです。前年度よりやや好転したとはいえ、厳しい中で全員よく頑張り、次の様な状態で卒業してゆきました。就職五十一名、自営一名、進学一名、専修学校二名、大学予備校三名の合計五十八名です。先輩諸氏のお世話になっていると思いますが、どうかよろしく御指導御鞭撻下さいませようお願ひ致します。

美術部

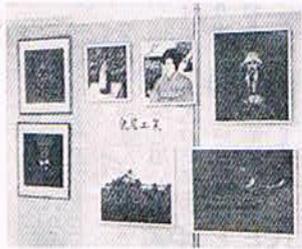
大阪市立高等学校美術・工芸作品展が去る二月一日より八日まで天満橋ダイコロギャラリーで開催され、本校も参加、出品しました。部員数も少なく、新入生

2名と3年生7名の小世帯ですが油絵を中心に制作に励んでいます。

軟式野球部

昨年の市立大会は鶴見商に7・0で優勝を勝ち取り、春の近畿大会は興國、福島商と強豪を破り伏兵都島工に惜敗した。工業大会は、準決勝に進出。6月7日に鶴見を決します。部員は現在六十名で、部員数は有名校なみです。今年も7月11日から7月15日まで福山で合宿します。OBの方、合宿練習の指導下さるようお願い申し上げます。

(顧問 伊藤利也)



求人数増加

莫立つ若人二百六十五名

この度、河野先生が進路指導主事を勇退されまし
た。十七年間に亘る功績に
対し心より敬意を表しま
す。後任の私としましては
河野先生に恥じない様努力
致す所存でございます。白
水会員の皆様には今後何か
とお世話になりますが、何
とぞよろしくお願い致しま
す。

さて、昨年度の卒業生の
進路状況につきまして、河
野先生からお聞きした話を
まとめて御報告致します。
昨年度は、始めの心配と
は逆に求人数が多かった。
景気が回復したとは思えな
い。

い、求人数のふえた理由
は学校へ訪問された人達の
お話から考えて、ここ数年
求人を探していた企業が、
社員の自然減と、社内の人
員構成において年令層の断
層の出来るのを防止する為
であるらしい。従って、入
社試験の結果を見て、標準
点に達しない者は無理して
まで採用しようとはしな
かったようである。一方大学
進学の方は、希望者も減る
ばかりで、ほとんど合格者
を出していない。各科の進
路状況は別表のとおりで
す。

(進路指導部長 大平勝彦)

▼繊維工業科

- オノエ家具 明石美智代
- 河合美術織物 小野温子
- ユニチカ 嘉陽 エミ
- 三木商店 河野多枝子
- 飯田織工 河村 忠明
- オーミケンシ 木下 昌子
- 大和合成 小出 順子
- 旭事務機 島村 徳子
- 〃 田中 好美
- つるみ診療所 白石 妙子
- 日本アイ・エフ・ジ 森本 嘉子
- 資生堂 茶畑 栄子
- 泊出 昌子

- さざなみ服装 中島伊津代
- 有限会社一栄 仲田 芳美
- 敷島紡織 中村としみ
- 西武百貨店 萩野 博恵
- 北大阪計算センター
- 福永真由美
- 日本シール 朴 弘美
- シスター美容室
- 臨港製鉄 松水 晋一
- 日本紡績検査協会
- 森本 嘉子
- 日本化学繊維検査協会
- 山内千恵子

科 別	在籍	進学希望	種各	就職	自営	未定
S	31	1	5	22	0	3
D	33	1	2	26	4	0
C	27	2	0	23	2	0
A	65	3	9	44	4	5
M	51	2	7	36	4	2
E	58	3	3	50	1	1
合 計	265	12	26	201	15	11

- 近畿理容美容専門学校 岩根 久恵
- 大阪電子専門学校 木村 正幸
- 大阪美容専門学校 平 あり
- 大栄経理専門学校 高三 康三
- 奈良芸術短期大学 安本 末美
- 色染工業科
- 三菱瓦斯化学 大阪工業所 上坂登志男
- 日本染化学工業 内原弘恵
- 森六商事 大西恵美子

- 三共 松浦千枝子
- 福徳産業 大西 久江
- 大橋 正浩
- 高村ひろみ
- 大森比呂美
- 奥田 房子
- 喜田昌美
- 桐山 美高
- 大日本インキ化学工業 工藤 由美
- 園田日出子
- 日本化学繊維検査協会
- 酒井 富子
- 新納真由美
- 鈴木 淳子
- 高 憲子
- 「パ
ラヤ」 榎本美恵子
- 奥野製業工業 西野尊子
- 長谷川ひろ子
- 日本紡績検査協会
- 浜名 幸世
- 春山 玲子
- 第一種元染化学工業
- 坂東 輝己
- 日高 清美
- 山内千栄子
- 大阪芸術大学 錦 みはる
- 府立夕陽丘女子高等職業訓
練校 浜町恵美子
- 東山 頼子
- 天理教のさしん寮

- 土屋 直美
- 赤田由紀子
- 山崎 里美
- 岩村 公美
- 井ノ口一臣
- 今井 仁
- 太田利之
- 尾崎 重男
- 小林 照夫
- 駒井武弘
- 近藤 昌彦
- 杉山 誠
- 鈴木雅志
- 田中 純毅
- 田中 信介
- 田中実千代
- 中村 孝行
- 桂一
- 山口長治郎
- 日夏 隆
- 古本 薫
- 堀口 和弘
- 牧 忠志
- 松村明美
- 山本 衡
- 若林 宣勝
- 渡辺 英明
- 公輝

- 平田 裕和
- 荒木 宗孝
- 西田 一裕
- 阿部 桂子
- 池信 和之
- 上地 利男
- 利男
- 上時 幹信
- 加賀 佳恵
- 垣内和美
- 川根 明
- 玄 明子
- 小林 弘嗣
- 富山 智昭
- 藤原 清
- 藤原 元
- 真野 成生
- 宮本 正道
- 宗広 文恵
- 村上 清
- 森井 健一
- 森口 明彦
- 山之内義彦
- 山本真由美
- 吉田浩美
- 岡田 幸司
- 稲垣 勝紀
- 榮藤元行
- 古座 俊之
- 小谷 勝紀

転任のご挨拶

数学科 馬 越 洋 一



昭和三十八年に泉尾工業高校に赴任して十七年が過ぎてしまいました。二十台の青年も、顔に白いものが目立つようになりました。いろいろな想い出を残して四月より、府立東豊屋川高校に勤めることになりました。

働くものの町、木津川筋の大正区もこの十七年ほんとうによく変りました。当時は、まだ市電が走っていません。メタンガスのわいている死んだ河を渡船で津守から大正へ渡って来るとき、船町の空には赤い煙、白い煙、黒い煙……とまことに艶なるものがありました。そして鼻毛がはえらることを憶えたのもこの頃でした。

がらえても苦勞するだけだから」と話すお母さんの声もききました。——その子たちの友だちになる筈の子供たちが、今ではみんな高校生になっていきます。——医師会や労働組合の人たちと「公害をなくす運動」を進めて来ました。沖繩出身者の人たちにとっての第二のふるさとである大正区では、沖繩返還運動は私を大変成長させてくれました。そのとき、「メソソール」のおばさんからももらった、ニガウリ、の種は今年もわが庭で芽を出しています。(※平尾町にあった「めし屋」の名前)夏には沢山のニガウリが実ることでしょう。その他、「高校全入学運動」「被爆者救援運動」等々……つきぬ想い出が残りました。

私は数学の教師でしたが大正区の人々とおつきあいは、ほんとうに、生活の全てにわたってしまいました。このように想い出の多い生活が出来たのは、ひとえにみなさんのご理解とご協力があったからだと心から感謝いたしております。新しい赴任校東豊屋川高校は、自宅から車で三十分程のところにあります。新設三年目の新しい学校でもあります。若い若い先生たちの中で、新しい時代の何かに期待をいただき、若い先生に負けない様にと一生懸命頑張っています。新しい時代の礎の一つでも出来たらという思いをめぐらしています。近づくに來られたときには是非お

旧職員消息

オメテドウ 清水先生

清水のゴロ先生が昭和54年度の体育功勞で、大阪府知事表彰をうけられました。失礼な呼び名をお許し下さい。どうしても、日頃の、温厚・誠実な先生への親しみのせいかも知れませんが……

バレエボール界の「トウちゃん」として、みんなから慕われ、永年の功勞が、今回の知事表彰となりました。

先生は、C科の6年卒。そして日体大と、学生時代は、剣道一途の様でした。戦後は一変して、バレエボ

立寄下さい。コーヒーでものみながら、新しい時代の夢でも語りあいたいと思います。

白水会及び会員のみなさんの新しい時代にふさわしい発展を願いつつ、筆をおくことにします。

馬越先生のご自宅は左記の通りです。
京都府八幡市男山吉井
二二一十二
電話〇七五(九八二)
一〇五五番

また新しくは、家庭婦人のバレエボールを、全国にさがし大阪でその育成に努力され初代会長として、今も活躍されています。まったくご同慶の程、心からお喜び申し上げます。

なお、母校の先生から、現在追手門学院大学教授として、在職されています。

西出宗雄先生
大阪樟蔭女子大学被服科で染色のゼミをご担当中の先生は、現在、日本の伝統的染色技法の化学的解明につとめておられ、染色の青花(天然青花紙小考・化学

寄贈

数本義雄先生

柴田惇志氏(D7)から次のような豪華本が寄贈されましたのでご紹介します。

毎日新聞社版五五、〇〇〇円で内容は解説編一六〇頁、標本紙編一七〇頁、生漉紙六四点加工和紙八六六点計一五〇点の標本入りの見事な本です。貴重な資料として永く保存したいと存じます。



西本宗秋先生

大阪府立第二工業高等学校校頭として御活躍中のところ、この度数本先生の後任として泉尾第二工業高等学校長に赴任されました。泉尾工高御在任中は教務課長として後進の指導にあたっておられました。今後の御活躍を期待しております。

四月一日より市立住吉商業高等学校長として転任されました。泉尾工業、泉尾第二工業と、昭和二十年九月以来工業教育に非常な努力をかたむけられていましたが、今後は商業科教育にも才腕を奮われることになり、一層のご健闘を期待しております。

計 報

上川徳造先生

○ 昭和2年5月より、昭和32年3月まで、色染工業科において主として実習を担当下さっておられました。上川徳造先生には、昨年7月20日、老衰のためご逝去されました。

先生は、温厚篤実、こつこつとその仕事に専心されて来られました。約30年間の実習指導において先生の厳しい中にも温情あふれる御薫陶は、今も古い卒業生各位の胸に生きておることと存じます。

謹んで先生の御冥福をお祈りいたします。

坪内健次先生

二代窯業科長、坪内健次先生は、昭和55年1月12日87才の天寿を全うされ永眠されました。まことに痛恨の極みであります。

先生は泉工草創期の大正13年に就任されました。そして昭和14年には窯業科長に就任されました。在職18年、教育全般にわたって御指導され、業界に数多くの優秀な人材を送り出されました。また一方戦前戦後、

地域の人々の信望も集め、社会的に幅広く活躍されました。その功績によって窯業協会より46年10月教育功績者として受彰されました。

本会についても会員の皆様と存じの如く、記憶力旺盛、よく集め、よく整理された泉工戦前の歴史を、記念誌あるいは会報に発表され、今日の世の中に多くの有益な力を与えて下さいました。

元来、御壮健な先生まだまだ御長寿を重ねられると思っておりましたが、誠に残念であります。誠実温和なお人柄が想はれ、和氣藹々とした気分であせられた姿を今も忘れられません。告別式には村上・高橋両元校長先生はじめ、旧職員、長野県窯業協会、窯業科第一回からの卒業生多数が参列し御霊を葬送いたしました。先生のご冥福をお祈りいたします。

山口忠彦先生

去る1月16日旧窯業科職員、山口忠彦先生は肝臓がんのためご逝去されました。まことに痛恨の極みであります。享年50才でした。

先生は昭和28年4月か

39年4月まで窯業科に勤務され、その後大阪繊維工業高等学校、向陽台高等学校教頭としてご活躍されておられました。53年6月、健康を害され入院加療された後快方に向い、再び教職に戻られてご活躍されておりました。泉工在職中は軟式野球部・音楽部の顧問として、また専門の窯炉工学には優れた先駆的な研究を行ない、学術の発展とともに教育指導にも大変真心のこもったご指導をして下さいました。告別式には旧知の職員はじめ教員が参列し御霊を葬送いたしました。先生のご冥福をお祈りいたします。

「ぼつ」ちゃん先生を憶う
C8 布谷 功
それは丁度五〇年前C科の教室だった。初めて陶磁器の講義を受けたのが先生との出逢いであった。その時は講義より、山登りの話が多かった様に、かすかに記憶している。爾来五〇有余年の風雪は夢の様に過ぎ、成績は常にブービーの腕白小僧も、いつのまにか六十四才となつてしまつたが、先生とは春秋の文通を絶やさない事、が唯一の慰めとなつた。在学中は

先生によく叱られたが、一度おまえは製図が大変上手だ、と褒められた事があつた。在学中にはめられたのは後にも先にも、これだけしかない。卒業後間もなく、あの思わしい戦争となり、私も召集され十年間の空白時代を過ぎたが、この時も先生には随分慰められ、又励まされた。戦線のテントの中で、ある時は駐屯地の兵舎の中で、ハガキ一枚にギッシリ書かれた先生の便りは、私の心の中に今でも暖かく残っている。買突剛健が先生の主義であつたが、ある時戴いたハガキには、「死ぬな生きて帰れ」とハッキリ書いて、このハガキを焼いた事があつた。これが為か幸いにも、十年間の戦列を無事生き抜く事が出来た。

戦後甲東園で新居を持つた時、同級生と先生をお招きして一日を楽しく過ごした事があつた。卒業以来先生にお目にかかったのは、この日だけであるが、折りに触れ、この日の事を、繰り返えしお便りの中に記るされておりました。先生の御便りの中では宮崎でマラソンに出場した時の様子を便箋八枚に、徴に入り細に亘

印刷のことなら
何んでもご相談下さい

印刷
と
紙器

株式会社佐々木印刷所

大阪市福島区福島8-9-19 電話 大阪(451)7013・(453)2460

鷺 州
やまがぼん

木内 政雄 (C33卒)

大阪市福島区鷺洲2丁目15-33
TEL. 458-5819

昭4A卒

り記るされたのが最高でした。昨年末お便りを戴き御元氣な様子が、ありありと

していただいたので、私も年賀状を差し上げました。処、いつも

もなら私の毛筆の賀状に対して必ず批評を下さるのに本年は突然の訃報に接し、

びっくり仰天した次第です。ようやく二度目に逢えたのが先生の御遺影とは残念

念でなりません。悲しくも先生の温顔の前で腕白小僧

の昔に還り、御冥福を祈り乍ら御別れ致しました。「ぼつ」ちゃん先生は、

何日までも私の心の中で生き続けられる事でしょう。

上川先生の訃
D10 西出 宗生

上川徳造先生がゆかれま

生徒として、おもえば随分長い年月になりますが、常にいたわられつつ勤めて参りました。

これは母校であったからでもありましようが、思えば何と云っても有りがたい事でした。

上川先生と言えば、戦争中、先生と私と、色染科の現職教員が二人になりました。

敗戦の色が濃くその故か、数少ない先生方は次々と他に転出され、後の補給

どころか、それでなくとも心細い毎日であったのに加えて、色染科が化学科へ吸収合併になる動きが抜か

たく、廃科のムードが日に日に強くなり、それは希望のないやうに

上川先生は言われました。「西出さん、がんばるのやで、わしらがいつてしま

ったら色染科の生徒たちはどうなるのや。人生はな

上川先生は色染科に出ることが好きでした。晩年は、ご子息の建築会

いいお孫さんにも囲まれ、まことに幸福にお過しでした。

生あるものの定めとは言葉、余りに突然でした。あれからも一年になろうとして

恩師山口忠彦先生を
C32 船木 守

昭和二十九年四月入学より昭和三十三年三月卒業迄の在

常には白い実験衣かベージュの作業衣姿で、公的行事以外

の授業態度は専門教科の典型的なもので教科書

ミカルなテンポで独語や英語を随所に折り返して講義

然し乍ら一面ではクラブ活動の

た小生は授業料の未納や進

化祭参加にクラスで「隅田川」を合唱するに当り白からピアノを弾かれてレッス

記念写真のDPEを初歩より手ほどきされるやら、学

で人生目標の自覚が出来はじめる年頃に御教導頂いた

御元氣な姿で御臨席下さいました。先生にも大変よろこ

お聞き頂き激励の言葉も頂戴し、胸のつかえが取

先生の御希望で毎年とは云わず隔年毎に息長く開催

したが、人生無常とは云え本年一月突然の訃報に接し

言葉もなく、御元氣に御出席されし御姿が今も鮮明に

生活の苦しい家庭で育つた小生は授業料の未納や進

路指導の事では特に御慈愛深き御世話様に成りました

に思いを成され、志中途にて挫折なされるはさぞ御無

念でした。先生は永遠に我等教え子を通じ子々孫々まで

思い出を綴り乍らあの卒業式

「仰げば尊し我が師の恩」

と心の中に唱和する時方感胸にせまり、自然と目頭

が熱くなり、落涙するを禁じ得ません。

御高恩に報いる事なく御別れするは残念極まりなき

次第ですが今後は先生に育まれし礎を決して忘却する事なく、より一層の努力と

先生本当に有難う御座居ました。どうか安らかに御永眠下さいませ。

最後になりましたが心からの御礼と哀惜の情を捧げ

まして筆を置きます。

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌

あらゆる建設機械とポンプの
レンタル & リース

(有)日商機械

本社 大阪市浪速区木津川 1-7-2
TEL (06) 568-3236
営業本部 大阪市浪速区芦原町 1176-3
TEL (06) 568-3211 (代表)

姫野康通 (M47卒)

白水会 東京支部総会

五月三十日をがれの銀座ニューアサヒで恒例の支部総会が演説(A35)幹事の司会で幕をあげた。

年々支部会員も増加して現在一八〇名が活躍されている。大正15年A科卒の山岡秀夫氏が松戸市から、若い大曲茂彦(S47)君も我孫子市から参加して泉工一色の夕べが時を刻んでゆく。

山下支部会長(A7)、藤倉校長、鎌田会長(D13)の力強い挨拶のあと、支部、本部報告があり、特に本部より創立60周年記念事業への取り組みについての考え方を述べご協力をお願いした。

色泉会

7月25日、京橋・朝陽閣にて久しぶりに色泉会総会並びに新入会員歓迎会を開催いたしました。

一昨年の「天龍」の時のように是非多数ご出席下さいますよう、幹事一同心よりおまわらしてあります。

尚、各クラスの理事の方は、同級生をおさそいあわせ下さり、是非お越し下さい。

泉窯会

母校と東京支部の発展を願って乾杯のあと、自己紹介、近況報告、恒例の福引き、自社商品などのPR、A4山口ご夫妻のお元気で仲睦まじいダンスの披露と進み、写真撮影、新旧校歌の合唱、いつもながらのA18大道幹事の名調子の閉会の辞で来年の再会を約して散会。

毎年参加して思うことは損、得を抜きにした同窓の語らいには一つの形が自然に生れ、その形が泉工を育てようとする心につながっていることである。

この同窓の心と心の触れ合いを大切に、はずかしくない新会員の育成に努力を

泉窯会

総会ご案内

昨年は都合により開催出来ませんでした。五月十七日の役員理事会を開きまして、役員改選、会運営の件、総会におはかりする議題等について話し合いました。役員改選については

白水会会長、4長野蘭蔵氏(創研企業取締役)
泉窯会会長、17黒田豊氏

重ねなければと思う。支部会員の方々、お世話になりました。厚くお礼申し上げます。

(S16 辻村記)

東京白水会に

出席して

初めて東京白水会へ。幾分か戸惑いを感じつつも、出席させていただきま

会場狭しと、旧交を暖め合せて歓談されている顔々。お互い青春時代を共に過した泉工時代に皆んなが戻った様です。私より年配の方々が多数参加されておられますが、その雰囲気は、まさに「若さ」です。アルコールの少々入った

(泉陽光学硝子社長)

にお願いすることになりました。泉窯会総会は白水会の総会場において、総会を行なうことになりました。是非総会にご出席下さいませようご案内致します。なお日時、会場は別掲の白水会総会案内をご覧ください。

泉尾化学会

今年度の総会は、御連絡しましたとおり五月十七日

宴なかば、堀田信三(C科36年卒 脇中昭夫)氏の、出陣の一シーン、信長役をテレビ以上の迫力で熱演です。ヤンヤの喝采。さすが、演劇界売り出し中の新星らしいムードです。

毎年、この東京での白水会が盛大に催されていきます。今回意義ある会合に接してまことに、故あるかな。卒業生諸兄の各業界での活躍振りを、膚で感ずる思いが致しました。有意義なこのような会が、如何在校生の成長に生かすべからずか、この模様を折りにふれて伝えてやりたいと思ふ次第です。

お世話いただいた玉田氏、高浜氏、お招きいただきましたことに嬉しく存じます。

(進路指導員 水谷仁三)

一部は講演会で、講師にA4山中不二夫先輩(週刊醸造新聞社長)をお願いし、「お酒の話」と題して約二時間、講演をお願い致しました。日頃、軽く飲んでいるお酒ですが、銘柄によつていろいろの特徴、微妙な味の違いがあり生産高を押さえて稀少価値を出し

ている銘柄の話等々、氏の軽妙な語り口とつきつきに出て来る面白いお話で、予定の時間がまたたく間に過ぎてしまいました。質疑応答に移っても左党を以って任ずる各氏からユニークな質問もたび出したりして、

講演会の幕をとじました。休憩時間をはさんで、場所を和室に移し二部の総会、新入会員歓迎懇親会を開催しました。元校長の室岡先生、元科長の古賀先生をはじめ多数の恩師を来賓に迎えてにぎやかに始まりました。会務、会計報告が了承され役員改選は左記の各氏が留任とさまりまし

た。

(伊サム塗料社長)

〇副会長 A17清水博司氏
〇副会長 A3立岡貞雄氏
(KKクラブコスマイク 会長)
〇副会長 A17荒井与四郎氏
〇副会長 A17小城盛親氏
(KK改源社長)
〇会計 A31小城盛親氏
(母校工化科勤務)
〇会計監査 A17橋本博氏
(加美化学工業専務)

つづいて懇親会、歓迎会に移りましたが残念乍ら新入会員(昭和五十四、五十五年卒生)が一人も出席願えず、直ちに懇親会に入りました。自己紹介ではお一

人お一人に盛大な拍手が送られ、特に出席者の紅一点A47北田早苗嬢には一きわ大きな拍手が送られていました。そこかしこで、恩師を囲み、思い出話に花が咲き、名刺を交換し合つて、なごやかな歓談の場となり、また、しばらくぶりの同級会が出現したりして、懇親の実を挙げました。宴

たけなわでありましたが会場の閉館時間となって、紅一点北田嬢の「同窓各位の健康し、泉尾化学会の益々の発展を祈念し併せて来年の再会を約して乾杯します」の名音頭で乾杯、続いてA3坂野徳祐氏の「万才三唱の音頭で、名残りを惜しみつつ、総会の幕としました。今年ご出席の方々は勿論欠席の方々も是非来年の総会には御出席下さい。つきに昨年よりお願いしております泉尾化学会の年会費納入者は次のとおりです。ありがとうございます。今後共よろしく納入方

お願いいたします。

(敬称略、到着順)

泉尾化学会年会費納入者名

△五四年度分▽
一、〇〇〇円
10 有田正雄 T13 菊川康雄
25 美濃幸雄 43 白石良介
35 金沢植 3 田淵新吾 38

- | | | | | |
|--------------|---------|---------------|---------|----------|
| 東勉 5 長尾武男 | 43 池田 | 田好弘 7 荒井与四郎 | 17 荒木桂一 | 26 外間宏治 |
| 昭三 30 栗田雅治 | 12 山本 | 奥住謙一 14 小崎達 | 三、〇〇〇円 | 27 大西久美雄 |
| 皓 4 山中不二夫 | 34 中崎 | 本貞二郎 24 川下勇 | 34 大西弘一 | |
| 紀夫 17 水田三郎 | 26 佐々 | 口憲弘 39 吉村勝 | | |
| 木良治 10 八木吉太郎 | 54 | 正裕 16 松下幹夫 | | |
| 富松克次 7 中嶋直一 | 42 | 清治 26 中村順一 | | |
| 久川道夫 13 松山雅勝 | 18 | 吉一 41 深井正輝 | | |
| 稲井雅由 40 西尾憲一 | 15 | 徳祐 7 杉江正啓 | | |
| 東野三郎 18 境邦二 | 14 山 | 俊司 16 北村定 | | |
| 田武二 15 熊西清信 | 7 家 | 28 南園良尚 | | |
| 次房夫 16 林幸一郎 | 18 岡 | 島袋めぐみ 27 竹内栄一 | | |
| 本広高 39 高元和彦 | 35 久 | 10 長谷川新次 | | |
| 米敏雄 35 高橋章 | 35 寺田 | 9 中野幸雄 | | |
| 義章 14 竹花稔一 | 32 渡辺 | 岩井勘造 17 横山幸男 | | |
| 嘉郎 24 細川忠男 | 中原 | 山辺信一郎 35 戸田勝裕 | | |
| 武男 11 井川英二 | 13 吉村 | 12 伊藤俊吾 | | |
| 信二 4 羽城勝太郎 | 21 佐 | 20 藤本光成 | | |
| 藤貫一 5 宮崎邦三郎 | 40 | 17 北川純男 | | |
| 池田隆司 41 安本雅昭 | 15 | 田秀三郎 32 亀尾貴 | | |
| 石津茂男 37 深井孝至 | 34 | 二、〇〇〇円 | | |
| 畑暢一 35 上田浩睦 | 36 坂 | 4 佐々木義人 | | |
| 本善明 12 橋村稔 | 11 西本 | 10 斎藤一博 | | |
| 久雄 16 合田富美雄 | 8 前 | 三、〇〇〇円 | | |
| 田博 神林鉄五郎 | 33 川 | 5 西嶋徳太郎 | | |
| 勝孝雄 45 大島俊雄 | 31 徳 | 五、〇〇〇円 | | |
| 井稔 35 多川碩一 | 23 松本 | 6 村上正一 | | |
| 義雄 11 永井淳治 | 7 長井 | 16 林幸一郎 | | |
| 資夫 12 福田耕顕 | 30 中井 | 27 山田雅也 | | |
| 忠誠 44 河重勉 | 2 桃谷茂 | 一〇、〇〇〇円 | | |
| 人 29 新里善成 | 44 倉沢光 | 3 立岡貞雄 | | |
| 男 37 駒田喜弘 | 30 堀内健 | 一、〇〇〇円 | | |
| 文 9 南彰 | 15 時松健次 | △五年度分 | | |
| 17 川田一夫 | 40 久延義弘 | 3 立岡貞雄 | | |
| 16 津田栄次郎 | 30 中谷省三 | 中嶋直一、荒井与四郎 | | |
| 33 本摩恒利 | 28 丹羽富造 | 林治雄、14 酒井修一 | | |
| 17 中間善吉 | 38 中尾章 | 井久、47 北田薫 | | |
| 山岸重信 | 46 尾形幸夫 | 24 | | |
| 藤原和夫 | 18 北田章 | 16 太 | | |



この前、開いた午泉会、ヤブさん開んで、にぎやかに、東京からは菅野くん、群馬からは小浦くん、皆んのお医者さん。

月日の経つのは早いもの、泉先生の御息も脳外科のお医者さん。

クラス会便り

CLASS MEETING

午 泉 会

午泉会(昭和三十年三月)卒業生同窓会(の皆さま)の皆さま、お元気ですか。卒業して早二十五年、気の早い人はもうおじいちゃんになった人がいるかもう?

月日の経つのは早いもの、泉先生の御息も脳外科のお医者さん。

この前、開いた午泉会、ヤブさん開んで、にぎやかに、東京からは菅野くん、群馬からは小浦くん、皆んのお医者さん。

五月、〇〇〇円

27 大西久美雄

34 大西弘一



D54卒同窓会

卒業してはや2年。陽春の5月17日、道頓堀「いづもや」にて開かれまして。担任の六辻先生を迎え卒業生15名という少しさみしい同窓会でしたけれども、久しぶりの会合とあって話もはずんでいたようです。今はまだ仕事の話が中心だったようですが、もう少しすればだんな様や子供の話に花がさくのでしょうか。

今度の同窓会には、全員顔がみたいものです。

(幹事、岩本、西川)

久第です。昭和54年度は去る11月2日の夕、木原幹事役の肝入りで大阪府福島区にある「富竹」という蓮料理専門の料亭に集り大阪では珍らしい美味な蓮料理と「歡喜光」という昔風の風味溢れる美酒に舌づつみを打ちながら近況と懐かしい諸々の話に時間の経つのも覚えない位に和やかに楽しく過しました。唯紅一点の美人に乏しかったのが心残りに思ったのは筆者のみでなかったようでした。

甚遅ればせ乍らこの席で昨年の泉会に坪内先生が元氣なお姿で出席された様子や泉会会の状況等を伝えると共に在阪の諸兄に泉会に極力出席願うように併せて要請しておきました。終りに6代になっても

相変わらず意気盛んで老境を感じさせない諸兄に敬意を表しながらテンセラー会近況をお知らせいたします。

出席者 十二名

堀谷氏 テンセラー会会長
川上氏 マネージャー
浅井氏
大居氏 愛知県刈谷市在住
大樋氏 木原氏 柴田氏
竹川氏 谷本氏
玉井氏 愛知県豊明市在住
中村氏
和田氏 名古屋市在住

欠席者 六名

安部氏 健康上
岩下氏 所用
横田氏 所用
藤原氏 腰痛
田和氏 所用

(玉井記)

歌 援 会 あゝ泉工よ 吾が母校

特集

ある同窓会の席上のこと
でした。宴たけなわとなつて、例によって次々と歌が飛び出してきました。それが最高潮に達したと思われ、誰かが校歌を歌い出しました。今までの雑談の輪が、今度は校歌の輪になりました。各科の応援歌も順に出てきました。体育祭

の事を思い出しているのでしょうか。それとも卒業の日の事であろうか――
青春の「コマ」を封じ込んだ校歌・応援歌は、これからも歌いつがれ、語りつがれていくことであります。

今号では、新・旧校歌と各科の応援歌のうち現在で

も歌われたり、記録に残っていないものを、歌詞のみ採録いたしました。

この他にも数多くあるかと思えますので、記憶の糸をたどりながら書き止め、編集部までお送りいただければと思います。

繊維工業科応援歌

黒煙空にうずまきて

ここ大阪の生命線

とどろき響き紡織の

我がが歓呼のおたけびを

戦いぬかん堂々と

戦いとらん栄冠を

あしの葉しげし落あつ

泉尾の空にどよめくは

大大阪のごう音か

我がが血潮の高なりぞ

戦いぬかん堂々と
戦いとらん栄冠を

色染工業科 応援歌

大 大 大 大 大

その名も高き 泉工の

万能もてり 色染科

打ちてしやまん我が選手

フレイ色染

フレイ色染

フレイオーオー

大阪市立泉尾工業高等学校

校 歌

校 歌

(泉尾工業学校時代)

1) 栄えある伝統 溢るる生気
凛然たり 吾らの学苑
たたく 真理の扉
期せよ 技術の練磨
夢と希望に 光を遣へる
世紀の寵児 吾らは生徒

1) 高橋威は四方に輝きて
正義の御旗凜然と
神州の民意氣高し
工業帝國我が使命
奮え進め泉工健児
(繰返し)

2) エンジン絶る 泉尾の空に
凛然たり 吾らの学苑
見よや 世界の動き
折れ 祖國の前途
平和産業 道一筋の
世紀の寵児 吾らは生徒

2) 麒麟を魂は踏襲して
非難如何にたけぶとも
誠実奮闘敢あらし
3) 建国ここに三千年
祖先の辛苦思ふ時
勤勞奉仕鉄血心

4) 日に新しく日に進む
文化の花を咲かせつつ
鉄脚工夫いざ行かん

5) 躍進日本の動脈と
譽れは高き大阪の
明日の栄えをわが肩に

旧制校歌

作詞 平林 治徳

作曲 信時 謙

昭和12年末制定

新制校歌

作詞 今中 輝彦

作曲 高木 和夫

昭和27年10月17日制定

紋付袴は 色染のしるし
色染男児のその名も高し

色染科応援歌

空は晴れたり

菊の香かおり

今日は我等が

晴れの舞台

胸ふるわせて

倒さん敵を

雄々しく 勇まし

我等が選手

勝てよ がんばれ

窯業科の歌

一、夫れ泉工の西北に
黒煙濛々立ちつづく
雲の下に集せる
我窯業の健男子

二、高き理想を抱きつつ
希望に燃ゆる若人の
意気激刺と照りはへて
天地の中に雄飛せむ
ハイザ窯業、ハイザ窯業
フレイオーオー

窯業科応援歌

一、もしもし窯業の健児達
学校のうちでお前程
競技に強いものはない
どうしてそんなに強いのか

二、なんとおっしゃるお友
達そんなら教えて上げま
しょう

三、抑も抑も強いという訳
は兄の作ったCの字の
旗を巡って我々が
一致団結するのです。

窯業科応援歌①

一、若い血は燃えグラント
を染めよ

二、走る若人手足を延ばせ
正々堂々熱で勝つ

窯業科応援歌②

一、紅い匂ふ曙に
若き我等の窯業科
爽かに明けて見はるか
大地を強く大地を強く

踏まんかな
二、夕べは光るスバル星
若き我等の窯業科
歓喜満つる灯の下に
杯高く杯高く挙げん
かな

窯業科応援歌③

一、泉工に集う窯業の科に
旭ほのほの輝き出れ
ば

Cの字高く雲に上り
日頃の練磨輝きあら
ん

二、雄々しくそびゆる
アカシヤの梢
打ち振るレースに
栄えの葉眼の
さわめく窯歌に極音の
光おどそかに窯業科
をば仰ぐかな

窯業科応援歌④

一、なびく黄色の旗風に
古き歴史の誇りあり
向う窯業に敵はなく
永遠に輝く栄冠よ
オーオー讃へん窯業科
フレフレ窯業科

二、仰ぐ浪花の城近く
日頃鍛えしこの腕
熱と力の窯業に
若き闘士の意気高し
オーオー讃へん窯業科
フレ、フレ、窯業科

窯業科応援歌⑤

若き血に燃ゆるも光輝満て

る我等

希望の明星仰ぎてここに
勝利に進む我が力
常に新らし

見よ精銳の集うところ
烈日の意気高らかに
さへさへ雲なきを

黨業黨業陸の王者黨業
黨業黨業陸の王者黨業

黨業科応援歌⑥

(青年黨業!!)

浪速西部に位置を占め

工業あり泉工

我等の黨業

皇統連綿栄えに栄え

勝利に進む

我等の意気を

黨業科応援歌⑦

(我等の意気)

(守るも攻むるもの節)
窓に燃え立つ熱火あり

万雷寂と静まりて

淀の凍凍の時

我等の希望は輝きの

六甲風吹かば吹け

恐るべきか

今ぞためさん不屈の心

黨業科応援歌⑧

(大毎春の野球の節)

秋空高き泉工の

希望に燃ゆる健児あり

力走砂をかむところ

見よや光栄の血は躍り

オール黨業の若人に

ラ：黨業

ラ：黨業ラララ

黨業科応援歌⑨

若き血潮元氣満ちて

いとしき光を身にまかせ

黨業健児使命重き

我等の務にいつくしむ

いざいざ我等が友

はがらかに走りつつ

いざいざ我等が友

へびをかけたつ

黨業科応援歌⑩

青空に陽よたぎり立て

若人の血よほとをはしれ

若人の血をはとばしれ

すはや大地に一人の覇者と

我等あり黨業その色に名に

来れともがら見よ見よ力

我等が健児の意気をば知る

我等が健児の意気をば知る

我等が健児の意気をば知る

我等が健児の意気をば知る

黨業科応援歌⑪

茶碗屋(箱根山の譜)

僕等の仕事を話そうか

茶碗作りも面白や

万丈の山から土掘り出して

コネクリ廻しロクロにすえ

て

クルクル廻して形を作り

昼尚暗き窯場に詰めこんで

石炭ドシドシくべりや僕等

のヒタヒは汗だらけ

一度焚いたら十時間の焚き

通し

天下に売り出す此種の瀬戸

物

モトを質せばおろかになら

ぬ 皆棟大事にお使い召され

かくこそあるなれ

僕等の一仕事

工業化学科応援歌

「青きうちわ」

一、吾らが足の

行くところ

日は輝けり

さわみなく

友よ いざ来よ

優勝の

青きうちわを

振らんかな

二、吾らが足の

踏むところ

泉は湧けり

底ひなく

友よ いざ来よ

感激の

青きうちわを

振らんかな

「六甲風」

一、六甲風すさぶ日も

炎熱大地を焼く時も

きたえに きたえし

この身体 なんぞひる

まん おそれんや

「奮え奮えいざ奮え

応化(工化)の健児」

(くり返し)

二、吾らは泉工の健児

応用化学(工業化学)の

強者ぞ 吾らの前に

敵はなし 吾らに勝利

の喜びぞ

「くり返し」

「八百健児」

八百健児のその中に

青色の旗ひるがえり

伝統はこる我が応化(工化)

新鋭の気もまた新た

今日覇を競う 晴の庭

立てば栄冠 吾れにあり

立てば栄冠 吾れにあり

「大阪の化学」

大阪の 泉工の

工業化学の強者ぞ

正々堂々 いざ勇しく

ベストをつくせし今ここに

フレエ工化 フレエ工化

フレエオー

化学機械科応援歌

一、青空の傘下に集う

陽光に輝る鋭気

我等の前途

世紀の王者我が機械

世紀の王者我が機械

世紀の王者は

我が機械

フレエ機械フレエ機械

フレエ オーオー

二、青春の血は高鳴りて

紅い満ちた頬

雄々しい前途

健児の王者我が機械

健児の王者我が機械

健児の王者は

我が機械

電気科応援歌

「若い血潮が風をよび

若い闘志が雲を巻き起こす

若きわれらが力の限り

ここに捧げて愛する母校

(今こそここに先立ちぬ

育ちの力われらが電気)

電気・電気・電気

おお われらが電気」

これが皆さんもよく御存

じのわが電気科の応援歌で

す。もともと右の歌の途中

カッコ内はここ二三年前か

ら応援時の制限時間等の関

係で省略されることもしば

しばあるようですが。

そもそもこの歌が生れた

のは昭和42年で、当時は電

気科が誕生してからようやく

5年目という頃で、未だ

他の科のようにこれといっ

た応援歌もなく毎年秋の体

育祭には応援歌がわり、

これではどうも……という訳

でクラスの中でもひとつ本

格的な応援歌をつくらうで

はないかという声が出てき

たのであります。

ちようどその頃私は趣味

でギターをやっておりと

なりの大平学級にはブラバ

ンのサクセスで大活躍をし

ていた畑山君もいて、二人

で競作した結果私の方が少

しよいのではなからうかと

いうことになりました。

私がつくりました。

さてその年の体育祭には

新作の応援歌をひっつけて

のぞんだ結果、それまでは

六科の中で毎年最下位の近

くを低迷していた電気科も

この年初めてたしか総合成

績二位にくだり込み、クラス

メイトみんな感激し喜び

あったものでした。

けれども月日のたつのは

早いもので感激のあの日か

らすでに十有余年、紅顔の

美少年(♀)だったわれわ

れも今では社会人としてそ

れぞれがいろいろなる所で活

躍しており、学業に、運動

に、情熱を燃やしたあの青

春の日々のひとこまがなつ

かしく思い出されます。

(E43 中尾剛一日立エレ

ベーターサービスク動務)



日本人の「仕事ぶり」

A12 伊藤 俊 吾

私たち日本人の仕事のしかたは、一心に打ちこむ勤勉さが世男の注目を集めています。以前には「エコノミックアニマル」とか「仕事中毒」などと中傷めいた批判もありました。不愉快に思い打消したいのに、反論のできないもどかしさを感じたものです。

世界経済の低迷、乱気流下に苦心の経営が続きます。この環境でわが国の繁栄や発展の推進力は、私たちの仕事ぶりであるのを疑う人はいないでしょう。盗れんばかりのさまざまな商品、物の豊かさや自由と平穩は、まされもなく私たちの営み、仕事のなから創りだしてきたものです。

あらゆる産業分野で最高水準の日本商品が高く評価されています。物づくりの技術のほかに、無形の管理力や競争耐力を備えた流通システムづくりの優れているのも大きな強味です。私たちの「仕事ぶり」の成果といえましょう。

私が泉工を出た当時、アメリカやドイツからの舶来品に熱い羨望の視線を向

け、財布の乏しさを嘆いたものです。隔世の思いは十年「ひと昔」ではなくて「大昔」の実感が、日本の進化を教えてくれます。

その頃の日本は貧しい生活とみられましたが、心まで貧しかったとは思えませんが、貧乏が勤勉を生んだわけではありません。私たちの仕事ぶりが、欧米とは根本的に違うことに、ようやく気付いた最近です。

西欧では、労働は苦役であり人に課せられた「のろい」とさえ考えられていました。奴隷の仕事、苦痛から解放を希う彼らの労働観ではワークする経営者と確執が絶えないのも当然です。コミュニケーション(地域)を大切に仕事は生計と割り切る生活から先進国痛が夢遊しても不思議ではありません。

私たちの祖先は農耕民族です。自然との調和と集団で働く仕事を「修業」と意識し、これを支える社会構造が戦国末期から江戸期に完成していました。

過日東京の指導先で「東海地震が起ったらどうしよ

す？」の質問に、「家庭は家内で守れる。仕事を続ける！」の声に、会社が運命共同体である私たちの心情をみる思いがしました。

会社の恥は社会の恥。社員の名譽は会社の名譽とする連帯の一体感情が私たちの「仕事ぶり」の源泉で、毎日の働らきの動因となっているのです。私たちが自前の意識をもち、連綿と続く日本の社会に良い伝統として、脈々と次代に引き継がれることでしょう。

自分のために働く喜びを向上にむけ、仕事を達成す

ることに精神的充足、心の安らぎを求めて努力を重ねる姿が、今日の日本の繁栄、発展を築いているのです。

二〇〇〇年に向って 後の半世紀は日本の世紀と未来学はいいます。働きがいを超えた生きがいも私たちの「仕事ぶり」の中から創造されるでしょうし、幸せと一体の心の豊かさも「諸業即仏業」の精進によって、成し得るものと信ずるしだいです。

(経営コンサルティング 創創合代表)

心機一転の辯

C16 岩田 義 治

泉尾を卒業してから四十年近くになります。若い人には随分と古い人の様に思えるでしょうが、当の本人はほんの少し前の様に泉尾の事を考えています。

実は、私はこの四月から京都工芸繊維大学で、デザイン教育に携る事になりました。これまでの企業でのデザイン経験と、反省を賣りに、特に実践的なデザイナーを育成し、これからの企業であやまらない企画を推進し得るデザイナーに仕立

てたいと思っています。昨今我が国の産業構造や産業政策が大きく変わりつつあります。又変らざるを得ないと云った方が正しい表現かと思えます。この変化の時代に、何をなすべきかを明確に見定め、実践出来るデザイナーが必要なのだと思います。この為には今迄とは異った、真の創造力を持った人材が期待されるわけであります。この仕事は言うは易く、行うは難いことは承知の上、心機一

技術と信頼の
ミニチュアバルブ総合メーカー

銅管用継手
焼結金属製フィルター

小段金属製作所

小 段 勇 (M46年)

大阪市平野区加美正覚寺町3-6-30
TEL (06) 791-9023(代) 〒547



総合厨房設備
設計施工

コウ ヨウ チュウ キ
晃洋厨機株式会社

代表取締役 川瀬 慶一
大阪市住之江区御崎5丁目11-12
電話 大阪06(685)2371番代
川瀬 充雄 (S34年)

転、情熱を傾ける所存であり、同時に大学人としての研究テーマには「生活用機器のデザイン」のあり方についてであり、これにも今迄と異った観点から取り組み、本当に生活の知恵からにじみ出た、生活用具のデザインの完成に立ち向かいたいと決意を新たにしています。

染色一筋

D7 柴田 惇志

「いずれにしても、久し振りの関西での仕事、心機一転この任務に取組むつもりで居りますので、皆様方の御教示を御願ひする次第です。」

(京都工芸繊維大学工業学部
意匠工芸学科教授)

旧友からお招き受け、久しぶりで参上、先づ一献盃をかたむけたら、ご夫婦揃って鄭重なお礼の言葉を戴いた。と申すのは万博見物でお世話になった節、貴公から頂戴した「ゆかた地」はいまだき求められない立派な染め上り、洗えば洗う程色あざやかとなり、今や我が家の「家宝」にしたとの由、そのわけを伺って私も大変感激した次第。

先輩曰く、この春九十九才の長寿を全うした母が、五年前から当区内での最長老となり、その故に、「敬老の日」には真先に区長の訪問を受けるので広報誌のカメラマンから、テレビ取材までが随行して立派な画面に撮るため一苦

た交友あるなかで、こんなに嬉しい思をさせられた私は誠に果報者。

思えば泉尾で机を並べた松田利三君がもつ「染色技術」の腕の牙に便乗させてもらっただけのこと、そこで彼の経営する「松利」の老舗（しにせ）を説明し乍ら盃を戴き誠に気分爽快の上なし。

創業は安政四年、当時は島の内と呼ばれた今の笠屋町に居を定め堂島（各藩の蔵屋敷と米穀取引所）船場（各問屋）谷町（住宅地）から道頓堀川に沿う芝居茶屋のお得意を取り始め安政・万延・文久・元治・慶応・明治・大正・昭和の九世代、染物一筋を家業とされたその染物はまさに高い技術の粋でありまさにに浪速の誇り。

時折無理な注文をするこの悪友が、去年お願いした外地引揚者会の旅行旗の出来栄はこれ又実に鮮やか、伊勢神宮の宇治橋をバックに一同揃って記念撮影したあと我れも我れもこの旗を入れてのスナップ取りに思わぬ時間をさかれて幹事の私は大弱り。そして最後にこの旗を振り、有難う松田君、老舗を守れ松田君、また会おう松田君、では何日迄もお元気で。



濱国レール株式会社

本社 大阪市南区鍛冶屋町60
電話(06)252-7976(代表)

主要取扱品目 建築 家具 金物 アルミ製型材・アルミ網戸 高級欄間・木製品等 総合卸商社

濱国グループ

札幌営業所

札幌市白石区北郷五条6丁目3
電話 (011)872-2772

東京営業所

東京都足立区中央本町3-14-25
電話 (03)849-8675

株式会社 新潟ハマクニ

新潟県三条市金物団地
電話 (02563)8-4181~2番

株式会社 宮崎ハマクニ

宮崎市大字赤江飛江田874
電話 (0985)52-1255(代)

台湾濱国股份有限公司

台北市長春路129號5-2
電話 (02)521-6511~2番



会員だより

母校に寄せられた会員の方々の近況をお知らせいたします。会費納入、住所変更などの機会にどしどしお便りをお送り下さい。

S 3 上申 隆

元気で。白水会報を読むと、又昔の思い出がよみがえり懐しく思います。

S 4 布谷 伊光

日本における航海計器の磁気コンパス型式承認作成に元気で協力しております。紡四卒の皆様によろしく。

S 7 神崎 長平

会報多謝、目下会長職、同期の消息を得て誠に懐しい。鎌田会長の「旅夜書懷」拝読、良き会長の下益々白水会の発展を祈ります。

S 7 佐野 正三

元気に消光、仕事(経営コンサルタント)に精進、

S 10 三浦 良貴

名古屋にて元気でやっています。

S 12 山村 英夫

今年還暦となりました。白水会報楽しく読ませて頂きました。お陰で元気で「ブックローン」(書籍)のセールスをしておりまして。全国へお届け出来ますので御利用の方はよろし

S 16 沖 葵

呉羽紡績(現東洋紡)へ卒業後直ちに入社し、38年より出向(但し、42-46まで東洋紡本店勤務)し、川上より川下へ遂次仕事替えをし、現在京都野村幹の出資会社でランジェリーの縫製を手がけています。来年は定年です。

S 17 武藤 寛志

福岡県土木部企画検査室で、県庁勤務早や32年となりますが元気でやっております。

S 40 倉田 博光

大阪旭興物に入社後、分身岡本の丸高工業に来て10年、現在石油を原料とするポリエチレンテープヤーの製造、販売しています。が今日の省エネルギー時代にいかに対応していくか前途多難であります。

41 中谷 秀雄

昭和41年度卒業の皆様お元気ですか。私も津守処理場でガンバッテマス。

S 43 平田 一男

宅地開発指導の仕事をしていきます。高槻市役所勤務

S 45 岸本 康子

子供も2才近くになり、おしめもなんとか取れて、時間的に余裕が出て来ました。でも学生時代に比べてやせています。体育祭、文化祭に伺いたいと考えています。

D 10 粟田 重見

織布会社(従業員約90名)を経営して約5年。孤独との戦に明け暮れ、身体は健康、野・山の変化を友にして暮らしております。

D 10 山川 繁夫

卒業後44年、織物の検査一辺倒で参りました。昨11月19日、満62才の停年を迎えました。喜ぶことも悲しみもの歌ではありませんが各地転任を重ねて頑張って参りましたが、いつも折にふれ泉工健児である事を頭に浮かべ、励まされました。後発の諸兄、繊維産業のむつかしい昨今ですが、深く掘りさげれば必ず道の通じる事を信じます。一歩一歩あせらずに力強く進めて下さい。

D 13 亀井 幸一

旭硝子KKを定年退職して現在協力会社である尼崎市の和光硝子工業KKに勤めています(管理部長)健康状態良好。趣味ゴルフ。

D 14 三宮 義孝

昨9月18日、久方振りに母校を訪問しました。浦島太郎の心境を味わいました。

D 29 田中 靖二

(チバ・ガイギーKK)昨12月3日より、会社が宝塚市に移転し、通勤に約1時間位かかり(余分に)困却しています。何か大都会より脱出、田舎へ行った様な感じですが、でも、サラリーを貰っている以上仕方なし。

D 45 田中(旧加藤)順子

10年ぶりに学校へ行き、色染科の実習室を始めてみてびっくりしました(きれいになって)。子供2人が喜んで遊んでいました。昔の工場では考えられない事です。運動場が狭くなっていったのは残念です。先生方も昔のまま(髪の毛に白いのがちらほらと)。とても楽しい時間でした。

C 11 川村 明

53年12月20日付にて嘱託勤務も解かれ現在は自達の生活です。新たな仕事を手がけたいと目下技術の習得に取組んでいます。

C 14 (3月) 高橋喜三郎

卒業後早や40年元気でカメラと共に勤めて居ります。

C 16 (3月) 藤元京次

定年後引き続き勤めております。元気に働いておりますが平素の御無沙汰申し訳ありません。今後共よろしく願います。

C 16 (12月) 岩田義治

現在、京都伏見区桃山合同宿舎に住まいし、京都工芸繊維大学工学部教授として勤務しております。

C 18 井上 久彦

白水会の中・四国支部会が一回開催されただけである。再度開催を希望する。

C 20 (3月) 湯山徳衛

送って頂いた会員名簿により、34年振りに同級生及び先輩後輩諸氏との消息をなつかしく拝見いたして居ります。長い間の御無沙汰深く御詫び申し上げます。

C 33 木内 政雄

3年前よりそは処、やまが、を開店して頑張って居ります。

C 44 沖本 仁美

暑さ寒さの中、毎日交通取締りに頑張っています。運営についていろいろご苦労様です。すっかりご無沙汰しておりますが、創立にかかわった一人として、感慨無量です。小生現役を引退して四年。お陰で健康にめぐまれ、甲南の緑に親しみながら、余生を楽しんでいます。

A 4 山中不二夫

まだ元気に働いておりますが、僅かながらも厚生年金を頂いて、老いたりの感なきにしもあらず。然し働かずに食べさせて貰えることに小さな喜びを感じるのも嘘ではありません。下甲斐性なしとはこんな人間の事かも知れません。けれども残り少ない命をどう使うべきか迷っているのも事実です。

A 4 羽城勝太郎

目下は、好きな旅行を楽しむにして、毎日毎日を楽しんでいます。

A 5 宮崎邦三郎

三十年余勤めた化学工業会社を定年退職後、小さな製菓会社に勤務中です。

A 8 前田 博

貴石金属類 仲買卸業。団地暮らし、少人数で呑みます。

A 9 中野 幸夫

会報52巻一号拝読、なつかしく再三よみ返し、その後の母校の様子や懐かしい名前を探し出して一度訪れてみたいと思いを新にしています。今後、益々健康に発展されますよう北海道の空から祈っております。

A 10 斎藤 一博

二人の息子と共に元気で家業に勤んで居ります。

A 11 井川 英三
元気にガンバっておりま
す。

A 12 伊藤 俊吾
幸に生きがいのある仕事
に取り組んで無事、消光を
続けています。

A 13 吉村 信二
加古川刑務所に勤務(倉
庫係長)あと一年九カ月で
定年。自宅で静かに暮して
いる。

A 15 中村 誠
共和石油ガス販売員。

A 16 北村 定
五四年六月十七日定年と
なりましたが、引き続き勤務
しています。

A 18 北田 章
昭和五二年四月より和歌
山県衛生部長。

A 18 河村 祐治
広島大学工学部化学教室
勤務。

A 24 川下 勇
すだれがみ 五十才健
在。

A 25 岩井 勘造
相愛らず安サラリマン
です。

A 26 佐々木良治
小生元気に頑張っていま
す。

A 28 南園 良尚
アローケミカル社設立。
耐蝕ライニング関係の仕事
をしています。
TEL四五二一五八四八

A 30 堀内 健一
神鋼、浅田研究所にて、
計測技術の研究に従事して
います。

A 32 山岸 重信
セキスイ化学ソーラーシ
ステムプロジェクト在職、
太陽熱システムのコレクタ
ー。生産技術にたずさわっ
ています。

A 24 中崎 紀夫
20年経過、長くて短い
今の心境

A 35 多川 碩一
室岡先生とは職場でおつ
きあいがございます。お元
気でやっておられます。西
本先生、南野先生、小林先
生とも最近拝顔致しまし
た。

A 35 戸田 勝裕
大阪一札幌一金沢と廻り
今高松です。

A 41 北本 治
三年前、五才年下の同じ
泉工卒業(S科旧姓仙石小
百合)と結婚し、今では一
児のパパとママ。この子が
大きくなれば父、泉工の生
徒にと話がはずむ。そんな
楽しい日々を送っていま
す。

A 42 久川 道夫
A 51 山田衛君 A 54
大滝あや子さんの兩名、我
社で元気に働いています。
特に山田君は私の直接の部
下で開発商品の研究を手伝

ってもらっています。

M 26 岡部 浩也
事業の方は順調に発展し
東海地区の化学分析界では
多大の信頼を得ておりま
す。

M 26 溝渕 初男
大阪を離れて早や十四年
いつも白水会報を見てなつ
かしく思われ、九州での仕
事の励みにして頑張ってい
ます。

M 36 北口 哲男
丸誠重工業へ入社九年
目、目下福島県東京電力福
島第二原子力発電所大熊町
へ出張し六年余りが経まし
た。

M 42 川瀬 健一
樺原市に移転しました。
教師生活も八年となり、何
とかがんばっております。
興味のある東洋の思想の研
究を発表したり、実践等に
取り組んでおります。

M 43 和田 隆喜
一九七八年一月より、二
年間の予定でシンガポール
の方へ出向社員として行っ
ております。

M 48 森田 敏夫
岡本設備研究所にて元気に
勤務しております。

E 41 田中 啓治
2児の父親として頑張っ
て仕事に励んでいます。

E 41 中原 英男
後輩が同じ会社に居るこ

とを会報により知ることが
でき喜んでいきます。

E 43 木村 徳夫
左記に転宅しました。
〒583藤井寺市小山2丁目15
の32

E 44 三木 啓至
小松製作所で頑張って居
ます。なを左記に住所を更
更しました。〒573枚方市印
田34-16-13

▼東京白水会
会員だより
(往復はがき返信より)

●繊維工業科

S 12 山村 英夫
ブック・ローンのセール
スをやっております。どう
やら身体だけは元気です。

S 12 林 利一
東洋機器工業科
勤務以外に町内会長、仲
間との囲碁会、庭木の手入
と多忙の毎日を通していま
す。

S 21 本條 晃
葛飾エンジニアリング科
①長男(強)今春大学卒業
現在アサヒゴルフ編集部勤
務、よろしく願います。
②長女(東子)今春短大卒
業、現在「きんぎょセキネ」
に勤務、婦人服のことなら
娘によくお願ひしま

工業用パッキング製造販売
石綿・ジョイントシート
ゴム・テフロン

千代工業株式会社
中根 潔 (M34卒)

〒547 大阪市平野区加美北6-12-21
TEL (06) 793-8166

染料・染色助剤・加工樹脂
油剤・工業薬品・其の他

泉化成品株式会社
代表取締役 瀧本廣之 (D32卒)

〒546 大阪市東住吉区東露合町2丁目1番地(池田ビル)
電話 (06) 703-5559 (代)

荒川博行 (D46卒)
原 妙子 (D54卒)

⑧私もやっと肩の荷が下りました。急に老けて白髪が出るようになりました。

S 40 磯貝 鎮夫
楠本フリアン

毎日、朝は朝星、夜は夜星、昼は梅干で頑張っています。残念ながら今回会社の慰安旅行のため欠席させていただきます。

●色染工業科

D 7 柴田 博志

相変わらず元気で動いております。寄る年波には勝てず歯科と眼科にお世話になっています。だが気迫は充分今秋中国へ再び行く予定。その節は母校の教育成果を充分PRして来ます。

D 11 天野 嘉信
東研産業科

40年のサラリー生活に別れ最後の10年のキャリアで工業用オイル・フィルターの製販に踏み切りました。生まれ代のかほそい企業ですが、現在の石油事情のもと「省資源」に直結するものと自負しています。

D 16 日笠 富夫
第一化成(株)

引続き日東紡績在籍のまま行田市の第一化成にお世話になっていきます。合成皮革「ジャネット」と「ナタリー」を生産しています。

D 16 本多 実

業界多難の折からですがニット染色の新鋭企業として活躍しています。

D 33 小林 英典

東京に移り早や四年目となりました。生粋の浪速っ子にとって食事の味つけ、女性の言葉の強さ、人間の多いためか、どの店も木で鼻をくくる様な味けなき！。それでも浅草や下谷・根岸の下町をめぐるとはほっと我にかへることがある。

D 49 大竹まり子(旧大住)

昨年11月20日付で日本化学を退職しました。その後新しい仕事をさがしているのですが、なかなか再就職はむづかしいようです。今回も出席できなくて申し訳ないのですが、宜しく取り計らい下さいませ。

●窯科業

C 3 磯 常和

品川白煉瓦磚顧問 古来稀なり、近來普通の70才を迎え、幸に健康で日々雑用ながら充実した日々を過しています。

C 10 林 友吉

坐骨神経痛で通院中のため欠席いたします。会員の皆様様に宜しくお伝え下さい。

C 13 木村 等

ネオフィルター工業株式会社慰安会と重なる。

出席できないのは残念です。卒業して早や42年、東京の僻地にて世情にうとくなくなっています。C13の同級会を是非実現したものです。誰か世話役になってくれませんか？万難を排して出席します。

C 16 杉野 義直
桐生レミコン機

55年4月より旧勤務先入州コンクリート機より桐生レミコン大井工場に転任、新設工場のため出荷少ない。

C 16 岩田 義治

4月1日付で京都の工業繊維大学でデザインを教えています。横浜とは往き来しています。

C 16 中山 文平

機前橋板硝子センター S53・11に群馬県前橋市の右記の会社に勤務、以来一年半経過元気で多忙な日を送っている。

C 18 大谷 正男

大成産業機(大阪) 5月末より約12日間程海外(米因)に参ります。東京白水会の皆様によりしくお伝え下さい。

C 30 小浦 清治

安全機材機八幡工場 硝子繊維の多角的利用を目的とした中小企業です。何処も同じでしょうが、人材難で困っています。

(株) 淀川製鋼所 ホロー工場から営業へ出て五年、現在は設計運動(官公庁、設計事務所)の仕事をしています。

C 44 後藤 義文
日東紡績機

硝子繊維の技術からコンピュータ室に移りました。先輩の日笠さんとともに、東京白水会の若手幹事として活躍しています。

A 大15 山岡 英夫

他の学校の同窓会が5月初旬京都で開催されましたのに出席を兼ね兼等で消日致してしまいましたので、甚しく回信が遅れ申訳ありません。よろしくお取り計らい下さいますようお願いいたします。

●工業化学科

A 12 大都城康雄
機レナウンホームズ 幹事御苦労様です。

A 12 福田 耕頭

①チソコ機 ②千葉ファインケミカル機 福引景品の件、例年の通りA12大都城君(レナウン)と連名で手配、御送付する様依頼してありますので、宜敷くお取計願います。

A 16 太田 好弘

大丸鉄鋼機 草加市より茨城県猿島郡境町下小橋工業団地に本拠

染料・顔料・工業薬品

平岡染料店

大阪市天王寺区国分町94
電話 大阪 {771-7426
779-5090

平岡利隆 (D31卒)

カタログ・印刷全般
文具・事務用品・印鑑

日南印刷株式会社

森本 正彦 (D52卒)

〒556 大阪市浪速区立葉町4-12
TEL (06) 562-3894

を移し、ますます業界に発展を期しているところである。尚自宅は草加市安行のままです。

A 16 ③ 津田栄次郎

松下電池工業株式会社 池事業部

芳ヶ崎の土地に来ていつの間には満39年を経過しました。元気でおりますので皆様によくお伝え下さい。

A 17 永田 三郎

日新工事株式会社

旧勤務会社の日本油脂株式会社より子会社の日新工事株式会社に出向して居ります。

A 18 中野 勉

54・8住友電工在籍で北星電子計器株式会社に出向、6年半ぶりに我家に帰りまして。

A 18 大道 邦雄

大宝産業株式会社

海外出張が多いので、東京白水会のため寄与することがなかなかできませんが万障繰り合わせ出席して居ります。

A 20 宇佐美昭司

マチダ紙業株式会社

本年度「中小企業診断士」として通産大臣登録を致しました。将来の自立を目指して専門分野の確立に努力致しております。諸先輩、後輩の皆様のご指導、支援の程を、◎手提袋(ホリ製)

50枚寄贈予定。

A 28 丹羽 富造

明治製菓株式会社 中央研究所 お菓子(社品)を少々持参致します。

A 29 玉田 敏也

東洋化工株式会社

業務用和食器の製造販売をしています。おいしさを演出する大切なワキ役、それは東洋の食器をモットーに。

A 32 辻 欣勇

旭ダウ株式会社

冷凍倉庫用の断熱材(スチロフォーム)の販売をしております。

A 35 高浜 俊資

株式会社

持ち帰り寿司専門店「赤坂ホウライ寿司」本部として展開中。先輩、後輩の人材積極的に求めています。よろしく!

A 38 才本 好彦

東レ株式会社

うさぎ小屋典拠の(編者注:ゴケンソン)家へ3月末に(シアータウン)引越しました。勤務もシフトに戻りましたので出席できません。(夜勤のため)

A 54 福永 新

東芝ケミカル株式会社

現在私は東芝ケミカル株式会社で実習中です。今年から年に営業の方面に配属される予定です。

それも東芝ケミカルの関西支店のワニス販売課です。

●化学機械科

M 20 山崎 常和

日邦工業株式会社

毎々苦勞様です。残念乍ら仕事で参加できません。皆様によくお伝え下さい。

M 34 勝亦 要夫

椿本チェイン株式会社

右記勤務先にて駐在二年八月です。

M 34 木村 勝彦

大福機工株式会社

海外出張が多く、今回も欠席させて頂きました。

M 34 稲田 隆幸

株式会社

今年で満14年東京勤務でしたが、4月末に大阪へ移転(単身7月末まで)しました。大へんお世話になりましたがよろしくお願ひします。大阪市浪速区新川三六三(六四九二二八二)

M 35 井上 大造

住友重機工業株式会社

当日会社内の行事が決定されているので残念ですが出席できませんのでよろしくお願ひします。大阪へゆくことは年に10回はありますが、母校へも卒業以来7年位行ったことぐらいです。来年の白水会よりの連絡もなし、東京のみの白水会員の有様です。一

度白水会報等見たいものです。

M 36 藤井 勝二

これまでも折にふれ左記の新住所を記入しているが今も尚旧住所にて連絡がくる。善処を望みます。(係より……大へん失礼しました。新住所横浜市緑区桜台二五一一桜台ビルディングB-四〇六号へ今後お送りします)

以上のように圧倒的に旧エイジが多く、40年代、30年代の卒業生は東京地区にもずいぶんおられるのでしょうが、天に馳けたか地にもぐったかやなかなか消息がつかめません。何とぞ東京地区へ転動された方は——葛飾区四ツ木3-1-5(〒124) 本多 実へご連絡下さい。電話 六五(六三三)

尚会報や連絡がないという声が多く、東京白水会の幹事として活躍中の高浜さんのところには「大阪」の名簿も白水会報も来たことがない由。なにとぞよろしくご手記下さいませよう。(文責在記者)

なおこのほかにもおハガキを頂いているのですが、メ切りの都合で割愛させて頂きました。



美仁染会のこと

同窓諸兄は名前から来るイメージとして男女共学? になってからの色染料を卒業したさぞかし美人の多い若い人の集まりでは?と思われるであろう。

ところがさきにあらず、これは今から二十三年前、昭和三十二年に色染料を卒業した世に言う『花の中年』が恩師と共にブレースするゴルフコンペの名称である。

時の流れと共に女子生徒が多くなり名物であった煙突、古びた建物が多くなり一つ正面玄関のみが昔の面影を思わせる母校の昨今、昔を懐かしみ、今日明日の活力源として、又恩師と出来る唯一のスクラツチゲームとして五十三年十一月から始めたもので、ご参加願っているのは、小笹、中平、水谷、北川の各先生方と三十二年卒、伊藤、内山、隈元、黒川、小松原、瀧本、馬戸、堀、六辻の計十三名である。

卒業年次をコンペ名称とし毎年三月二日を中心

数回集まる事としており今年三月は奈良CCで四回目の運びとなった。

さて肝心のゴルフの腕前の方が一打当りの単価を安くする為か、或は働き過ぎの疲れが原因してか、はたまた一同謙虚な人柄が出て師の影を踏まぬ為か学生時代の反動が出ているのか多くの点をとり学生時代であれば全員、優を貰えると思つた技量である。

今七月に茨木高原で第五回目を挙げてこれまで茨木、奈良と名コースで迷ブレーをして来たがスコアはアラウンド89/137と幅広く、珍プレー、珍コーチ、珍解説、珍記録、とチンチンばかりの珍コンペで誰れにも優勝のチャンスのある楽しい集いである。

(D 32 瀧本記)



昭和54年度

会費・寄付納入一覽

●織維工業科

- 一〇、〇〇〇円
- 7 神崎長平
- 六、〇〇〇円
- 18 藤岡敏夫 27 中村寿太
- 五、〇〇〇円
- 10 三浦良貴
- 四、〇〇〇円
- 29 土岐照治
- 三、〇〇〇円
- 7 佐野正三 16 南野泰三
- 37 高田 勇 37 富田孝一
- 42 安部孝雄 44 山崎峰子
- 二、〇〇〇円
- 12 多胡正治 17 西谷(伊藤)
- 千秋 27 栗田和之 38 久保
- 田勇之助 38 兼本(宮城)
- 武紀 45 岸本康子
- 一、〇〇〇円
- 3 上中 隆 4 布谷伊光
- 4 飯田年春 6 沢井 博
- 6 水松昌二 7 岡本龟吉
- 9 靴谷太喜二 9 松本吉苑
- 9 山岡八三雄 9 和田太郎
- 10 谷 馨 10 中村直三
- 12 林 利一 12 野田成男
- 12 山田多市郎 12 山村英夫
- 13 金田 毅 13 加納秀男
- 13 川口喜三 14 庄司 弘
- 14 堀井健一 15 荒井政敏
- 15 大石 博 15 大坪吉行
- 15 高橋誠一郎 15 前川良夫
- 16 五十崎彰 16 沖 奨
- 16 桂川御一郎 16 河江繁康

- 16 佐竹惟信 16 光安茂 17
- 岡田弥三郎 17 田中喜久雄
- 17 武藤寛志 18 上田茂実
- 18 藤川一市 20 黒田芳昭
- 21 村上博史 21 本條 晃
- 22 佐々木良二 28 小西一正
- 29 土岐照治 31 河岸 勝
- 31 三国 広 31 矢部俊司
- 33 上瀬和男 33 鈴木 裕
- 33 田端俊二 34 品川正洋
- 34 杉本惟弘 35 大坪義明
- 36 吉岡弘泰 37 外間正泰
- 37 芳武 豊 38 米沢秀昭
- 38 田中豊三 39 笠岡満夫
- 40 池田末男 40 磯貝鎮夫
- 40 倉田博光 40 打越一雄
- 40 深井敏幸 40 佐藤正隆
- 40 美馬駿二 41 東出憲治
- 41 中谷広治 41 中谷秀雄
- 42 中條秀夫 42 中谷都詩子
- 42 木内利雄 42 加茂深雪
- 43 北口幸治 43 平田一男
- 43 嶋田(小島) 一美
- 43 川森(崎元) 愛子
- 45 丸山(藤原) 節子
- 46 永島(西沢) わかみ

●染色工業科

- 一〇、〇〇〇円
- 13 長谷川正裕
- 五、〇〇〇円
- 8 石田正利 16 茨木富太郎
- 三、〇〇〇円
- 12 田中義人 12 中川市造
- 二、〇〇〇円

- 5 古山 茂 14 宮内 彰
- 17 吉浦 隆 36 豊田 達
- 42 松宮政幸 43 多田 司
- 一、〇〇〇円
- 2 白石 巖 2 小川次助
- 3 石村芳郎 3 木内忠五郎
- 3 永富雅三 4 小西国男
- 4 西橋民雄 5 石田帝介
- 5 高木茂幸 6 津嶋隆男
- 6 森末三治 7 福本長五郎
- 7 安田 穰 8 岩倉晴美
- 9 本咲利邦 10 粟田重見
- 10 西出宗雄 10 山川繁夫
- 10 松本茂夫 11 西明得治
- 11 森 信也 12 加藤春雄
- 12 杉田喜三 12 松田家勇
- 13 上武鹿三 13 大塚知之
- 13 鎌田修一 13 亀井幸一
- 13 中務昌治 13 本多 薫
- 16 (3) 土谷英一 16 (3) 日笠富夫
- 16 (3) 中川奈良一 16 (3) 柳芳郎
- 16 (3) 福島節生 16 (2) 是水浩作
- 16 (2) 柴谷吉宣 16 (2) 水川嘉海
- 17 島瀬 修 18 高橋 馨
- 18 廣部英三 20 川村精吾
- 20 柴田和男 20 堂谷秀治
- 20 濱本浪雄 21 嶋 豊
- 21 堀 省三 27 森島雅夫
- 29 大門三広 29 田中靖二
- 29 玉村 弘 30 福森文夫
- 32 小松栄治 32 龍本広之
- 33 出村介嗣 34 永岡正憲
- 34 本多耕平 35 越谷巖嗣
- 35 野崎和男 36 島崎南海夫
- 38 西村雅晴 38 二宮昭男
- 39 佐々木泰久 39 仲田良夫
- 40 渡辺 一 41 増成しげこ
- 41 浅井賢一 41 金津佳光

- 41 菊田和彦 42 石塚節子
- 42 江口 忠 42 川本映子
- 42 田代文代 42 雪本政志
- 43 大城泰博 43 高野加代子
- 45 貴田広志 45 田中順子
- 45 津代久子 49 沖本英一
- 窯業科
- 一二、〇〇〇円
- 12 横井善一
- 一〇、〇〇〇円
- 12 山下俊彦
- 六、〇〇〇円
- 20 湯山徳衛
- 五、〇〇〇円
- 8 布谷 功 36 西川輝彦
- 三、〇〇〇円
- 40 福盛茂記
- 二、〇〇〇円
- 4 徳本 操 7 遠藤仁太郎
- 9 中村義行 13 木村 等
- 15 龍門 寛 17 福原初男
- 17 広居英武 20 巽 伊作
- 29 久保光輝 32 佐藤吉男
- 33 北出英二 33 木内政雄
- 36 糸本幸彦 37 松尾忠勝
- 40 堺 邦雄 44 齊藤 博
- 一、〇〇〇円
- 3 木谷龟雄 3 柳井二郎
- 3 磯 常和 4 安野三弥
- 4 長野蘭蔵 5 伊藤一榮
- 6 岩橋信良 6 植木幸雄
- 6 玉川英夫 7 伊奈岡芳次
- 7 土井一人 7 藤村嘉夫
- 8 小林豊太郎 8 酒井卯三郎
- 9 松井新一 10 林 友吉
- 11 石浜省三 11 川村 明
- 12 辻 芳次 12 井本 実
- 13 大石皓造 14 上野 満

営業種目

水処理機械設計製作据付一式
起重機・コンベヤ
熔接鋼管・鉄骨工事
製缶熔接一式

間機設工業株式会社

間 文 彦 (M37卒)

〒555 大阪市西淀川区御幣島5丁目11-22
電話 大阪 (471) 5767・5768

営業品目

空気圧縮機 瓦斯圧縮機
送排風機 ポンプ各種
各種排気装置 各種集塵装置

三国産機株式会社

代表取締役 福原初男 (C17卒)

事務所 大阪市大正区千島1丁目13番20号
TEL (551) 6119・0369
工場 大阪市大正区三軒家東6丁目5-10
TEL (551) 0 8 7 9

14 上田猛雄	14 柴田清司	7 山下辰雄	23 松木義	福辰敏	35 寺田義彰	35 高	前田博	9 中野幸雄	9 南	喜弘	37 深井孝至	38 東	34 西山瑞彦	34 林 輝次						
14 高橋喜三郎	15 岡田 浩	5、○○○円	26 中村順一	27 山田雅也	三、○○○円	7 長井資夫	11 竹中利夫	12 大都城康雄	15 萩野準造	17 清水博司	29 三宮勲	31 若松邦彦	32 辻欣男	35 田						
15 清田 實	15 後藤三雄	26 中村順一	27 山田雅也	三、○○○円	7 長井資夫	11 竹中利夫	12 大都城康雄	15 萩野準造	17 清水博司	29 三宮勲	31 若松邦彦	32 辻欣男	35 田	中俊一	40 高島幸三					
16 長谷川恒治	16 浜口隆信	7 長井資夫	11 竹中利夫	12 大都城康雄	15 萩野準造	17 清水博司	29 三宮勲	31 若松邦彦	32 辻欣男	35 田	中俊一	40 高島幸三	二、○○○円	20 宇佐美昭司	36 坂本善明					
16 家村 巖	16 大嶋安司	20 宇佐美昭司	36 坂本善明	44 倉沢光男	52 松尾巖治	一、○○○円	T 13 浮田雄弘	T 15 渡辺清	3 田淵新吾	4 田仲義正	5 大内吉一	5 長尾武男	5 立岡末雄	6 西島庄一	6 村上正一	7 中嶋直一				
16 藤元京次	16 中山文平	3 田淵新吾	4 田仲義正	5 大内吉一	5 長尾武男	5 立岡末雄	6 西島庄一	6 村上正一	7 中嶋直一	6 藤井武	9 中野幸雄	10 有田正雄	10 齊藤一博	10 丸山五郎	11 永井淳治	10 秋田信一				
16 老田 弘	17 黒田 豊	6 藤井武	9 中野幸雄	10 有田正雄	10 齊藤一博	10 丸山五郎	11 永井淳治	10 秋田信一	12 福田研順	12 桐原栄一	12 中嶋英造	13 須藤次朗	14 中原清治	14 山田武二	15 高井精一	15 三宅恒夫				
17 高下喜久藏	17 林 正温	12 福田研順	12 桐原栄一	12 中嶋英造	13 須藤次朗	14 中原清治	14 山田武二	15 高井精一	15 三宅恒夫	15 林田澄	16 鈴 木市松	17 荒木桂一	17 川 田一夫	17 橋本博	17 水田 三郎	18 北川純男	18 境邦 二			
17 古武正幸	17 治良政幸	15 熊西清信	23 松木義雄	26 塚谷俊介	三、○○○円	5 西島徳太郎	10 齊藤一博	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
18 伊勢清秀	18 井上久彦	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
18 大前 博	20 高下建吉	15 熊西清信	23 松木義雄	26 塚谷俊介	三、○○○円	5 西島徳太郎	10 齊藤一博	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
20 佐野武甫	20 木村重次郎	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
20 布垣 博	20 楠田博之	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
20 千葉寿一郎	20 木曾敏夫	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
21 磯野直員	25 坂口 輝	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
25 長尾石廣	28 佐藤泰栄	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
29 古川明二	30 小浦清治	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
30 森藤 浩	31 青山有一	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
33 齊藤幸夫	33 崎野善彦	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
33 白髮明義	33 河本 勝	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
35 佐賀木康邦	35 西尾哲夫	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
36 脇中昭夫	38 杉山 弘	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
39 山内正彦	39 中垣茂樹	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
40 藤村浩二	40 買手良一	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
40 西村良明	40 木地清司	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
41 宮地 博	41 佐賀木敏治	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
41 岡田千春	41 横山重美	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
44 八幡 一	44 草場信行	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
44 後藤義文	44 沖木仁美	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
50 藤田勝正	●工業化学科	17 清水博司	24 青野伸男	26 中村順一	27 山田雅也	28 塚谷俊介	三、○○○円	15 小山勝	16 (8) 合田富美雄	16 時松健次	20 藤本光成	二、○○○円	12 桥田秀三郎 (中退)	16 北村 定	24 川下 勇	30 中村忠誠	一、○○○円			
(53年度未掲載分)	31 安藤允一	31 柳生幸治郎	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 安藤允一	31 柳生幸治郎	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加		
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加
一、○○○円	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎	33 本摩恒利	33 宝達芳孝	34 畑嶋一	34 加	31 柴崎惟洪	30 石川敦一	31 柴崎惟洪	31 德井稔	32 芳山恵則	32 渡辺嘉郎				

◆事務局からのお願い

◆ヤング会員の積極的なご協力を

会員の皆様にはお元気で活躍の事と存じます。
「白水の流れを絶やさざるべけんや」、つつがなきや同窓諸賢、この言葉は鎌田会長が54年度の会報に掲載されたものであります。が、会長はじめ会員皆さんの絶大なご協力を得まして、白水の流れがよどみなく河口へと広がり、いよいよ大海原へ注ぎ込む年輪を刻む年になりました。
昭和57年の創立60周年を真近に、われわれ卒業生一同は後輩を育てるといふ健全な精神を更に発展させ、本来の泉工卒業生を社会へ送り出す環境づくりに努力を傾けようではありませんか。

60周年記念行事として母校では記念誌の発行と年輩卒業生の学校招待という誠にささやかな、遠慮的な内容が予定されておりますが、なんとかわれわれの総力で窯業科・工業化学科の増改築完了の時点で、60周年行事の延長として、後輩の学び舎に生徒が自信を持ち、先輩の心に答えようとする気構えの生まれる環境

- ◆55年度運営方針
5月23日に開催されました役員・理事会で次のように運営方針が決定いたしましたのでご報告申し上げます。
常任理事長 辻村 弘(S16)
- (1)年会費納入の推進
- (2)会報用広告依頼の強化
- (3)総会に参加を推進しメリットを持たせる方策検討
- (4)60周年記念行事への積極的な協力
- (5)運営推進への積極的提案
- (6)役員改選
- ◆創立60周年記念募金についてお願い
56年の会報に具体策内容を提示し募金運動を展開

たしますが、ご協力いただきける方々は本年度からでも結構です。金額は問いませんので年会費ご納入の際に払込み用紙通信欄へ、内60周年賛助金いくらとご明示していただければ幸甚です。どうかご協力を。
役員・理事会の席上で理事の方から各理事間の連繋を密にして、募金行動係を編成し、積極的な姿勢で前進しようというありがたいご提案をいただきました。
我々、母校に奉職する常任理事としまして非常に心強く感謝しております。

- ◆年会費ご納入について
昭和45年3月卒業以前の方々、年会費一、〇〇〇円を同封払込み用紙でご納入をお願いいたします。今秋より郵送料が値上げになりました。どうか順調な会費発行のためご協力をお願いいたします。
- ◆終身会費制度の確立について
54年度に、毎年納入は面倒だから終身会費制度を確立してはとのご提案をいただきましたが結論が出ない状態です。さらに検討を重ねます。
- ◆住所・地名変更のご連絡
は学校内、大阪白水会事務局へ。

- ◆東京支部総会で55年度年会費・寄付をいただきましたので報告いたします。
- 一、〇〇〇円
- S16 後藤達之助
- S21 本条 晃
- S22 佐々木良二
- S46 大曲 茂彦
- D7 柴田 博志
- D16 日笠 富夫
- D33 気谷 清治
- C3 磯 常和
- C18 大前 博
- C30 菅野 敏雄
- C36 堀田 真三
- C44 後藤 義文
- A7 山下 辰雄
- A12 大都城康雄
- A16 太田 好弘
- A18 長谷川 晃
- A18 阪口 利雄
- A18 大道 邦雄
- A20 宇佐美昭司
- A28 丹羽 富造
- A29 玉田 敏也
- M20 長谷川正雄
- M38 大谷 八峯
- 二、〇〇〇円
- D11 天野 嘉信
- A13 松本 諒士
- 三、〇〇〇円
- A4 山口 繁一
- 六、〇〇〇円
- D16 本多 実
- 合計 三六、〇〇〇円

●54年度広告によるご協力
東京支部
鎌田修一氏 D13
平岡染料店 D31
日南印刷機 D52
三國産機機 C17
やまがそぼ C33
イサム塗料機 A17
田崎真珠 A4
磯佐々木印刷機 A4
浜国レール機 M25
上野精器機 M37
石川物産 M37
問機設工業機 M33
市岡建設機 M51
千喜良運送機 M37

大阪白水会の発展を祈ります

支部總會多数参加で、ますます盛大

(東京および周辺地区へ転動の会員諸氏
是非支部事務局までお知らせ下さい。)

東京支部長 山下辰雄 (A7卒)
支部会員一同

支部事務局：東京都葛飾区四つ木3-3-5 本多塗工内
本多 実 (D16卒) TEL 03-694-6563

◎あとがき
梅雨の暗れ間をぬってグラウンドでは野球部員の練習が始まりました。間もなく梅空あけです。この会報が皆さんのお手許に着く頃は真夏の太陽が輝いていることでしょう。
編集担当者の大任がやると果せそうです。記事を寄せて下さった先生方や会員の方々、多謝。
特に佐々木印刷さん(いまこれを書いています隣で割付けして頂いています。)には心から感謝致します。内容充実のため多くの方々の声をお待ちしております。